

版權所有

大日本中學會

地
理
完

法學士中川小十郎講述



(一)

次目義講理地本日

日本地理講義

目次

第六	第五	第四	第三	第二	第一	地方誌	總論	緒言
山陰道	畿内	北陸道	東海道	東山道	北海道			
一八三丁	一七一丁	一五九丁	一三三丁	一〇二丁	八四丁	七七丁	九丁	一丁

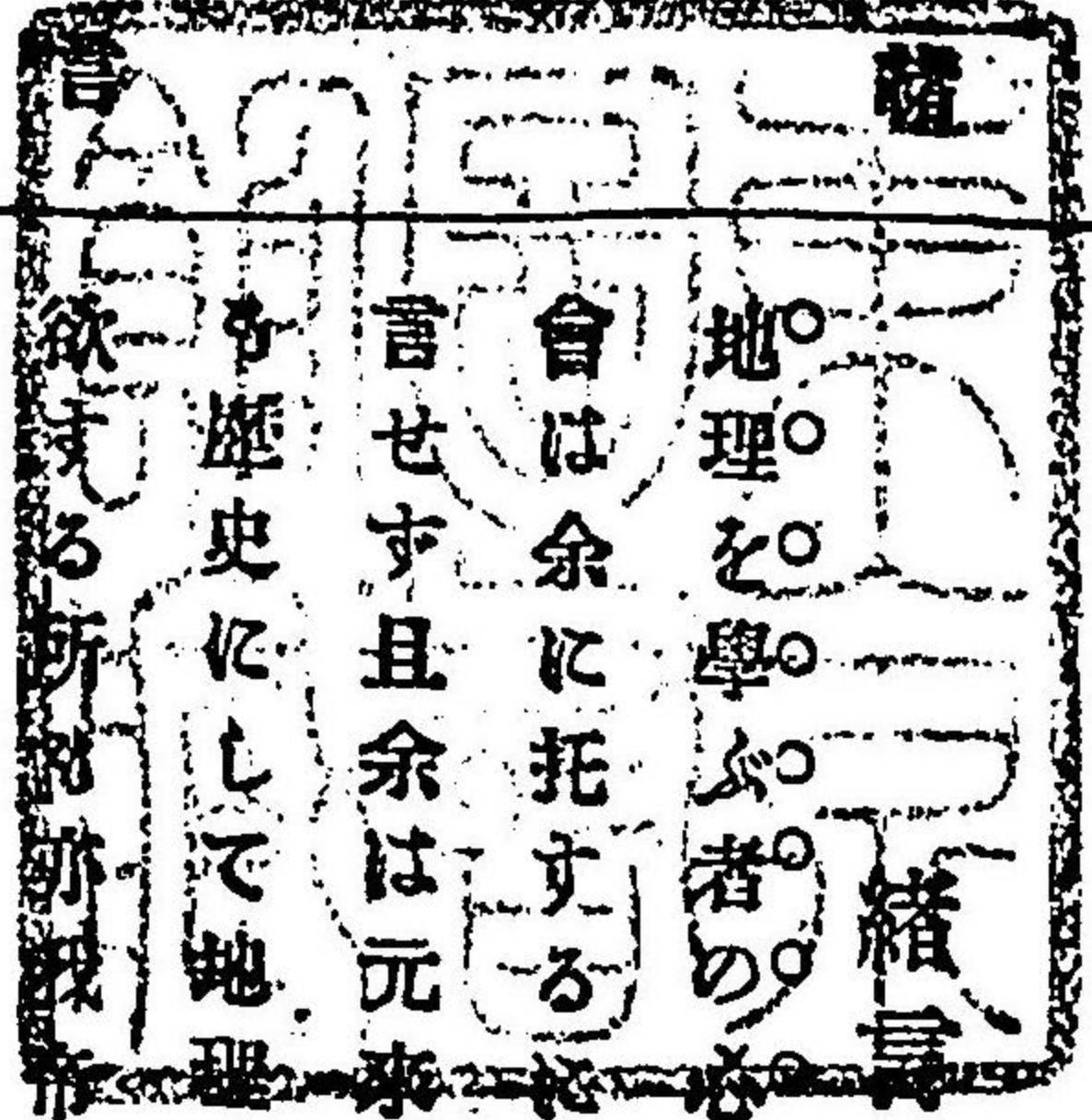
第七 山陽道
 第八 南海道
 第九 西海道

一八九丁
 一九七丁
 二〇八丁

日本地理講義目次終

日本地理

法學士 中川小十郎講述



地理を學ぶ者の心得 付余の經驗 本科第一學級諸子よ今般日本中學
 會は余に托するに 日本地理の講義を以てす余不肖其任に堪ゆとは公
 言せず且余は元來地理學者にあらずして其大學に在りて專修する所
 事歴史にして地理にあらず又畢生の目的として聊か微力を致さんと
 欲する所材亦我帝國の歴史に在り然れども所謂生れ付たる物好にて
 齡僅に七八歳の頃よりして地理を嗜み殊に地圖を作ることを受し今
 尙ほ書匣を捜る時は匣底より圖らずもむかし己の製せし地圖を發見
 して一笑を催すこと屢なり抑製圖の地理學に肝要なるは余が今茲に

(一)

事珍らしく喋々せざるも皆人の知る所にして諸君も今より我國の地理を學び能く腦裡に收めて之を遺忘せざらんことを望まれれば先づ何よりも初めに余は諸君の自ら地圖を作られんことを勧めんとす固よりさして精細微密に荷くには及ばずたとひ疎陋なりとも能く其大綱を擧げ山河港市等其位置の權衡を過たざれば可なり地圖を製することは一寸面倒なるが如きも中々樂み多きものにして記憶を助くることの大なるのみならず實際に頗る便利あるものなり余は吳々も諸君に望むことは單に余の地理講義を頁を追ふて素讀するのみに止らずして各豫めあらざらなりとも白文略圖位は製作され自ら其圖上に於て以下余の説く所は一々辨明することを得らるるはとに爲られんことをかくして余の講義を讀まれれば遂には其考荷も地理に及ぶ時は其國其地方の地圖自然と其の腦裡に浮び來り何處に何山幾々何處

に何川流れ何市彼處にあり何港此處にあり等歷々暗誦し得るに至るべしとすれば地理は己に諸君の手に入りしなり是即ち眞の卒業といふべく天晴人の面前に於て地理を談することを得べきなり余自身も寧ろ人に習ふよりもかゝる方便により十數年來自修して稍得る所あるが如く後歴史を修むるに當りても其地理との關係深きが爲に一日も心斯學を離るゝこと能はずされば中學會より地理講義を委囑せられし折も我望む所と甚だ嬉しく喜び勇みて御受をしたりあはれ今より瘦腕ながら縋掛けて力め講じ以て本會の高譽に報はんとす諸君も亦努力して熟く讀みよくおぼえ給へ實に地理學は直接にも間接にもなほいはゞ實際にも學問上にも必要欠くべからずして其用の廣く且大なることおさく他學に譲らざるものなり

地理學の必要 地理學の人生に必要なことは云ふまでもなきこと

ながら一言すれば吾人何人か地上に棲息せざる。又吾人必需の動物、植物、礦物諸般の物何れか地上の産ならざる陸よりせざれば必ず水より之を得吾人の一舉一動既に地を離るゝ能はざることを知らば其地理學の吾人に必須なること從て明瞭ならずや故に余は地理學の識は誰彼を論ぜず又其職業身分を問はず皆之有らざるべからざるものなりといふを憚らざるなり唯其關係の度の親疎をいはゞ人により職分により自ら厚薄深淺の差なきとを得ず思ふに政治家、軍人、商人、航海者等には直接に必要にして其他世の經濟又は殖産興業等に志す者も皆大に地理に通ずることを要すべし何ぞや余は其理由を詳述することを好まず諸君試に是等の人にして地理不通として其結果如何を一考せられよ直に自ら其必要なる所以を覺らるべし次に學者には其何學を修むるを問はず皆必要なるも殊に歴史家、社會學者等には大に必要にし

て文學、政治、經濟等の學者も亦斯學の補助を要すること大なり此の如く其用の廣く且つ大なる地理學況して祖先以來數千年來其地に住し其恩に浴し今や世界の古國東洋の美邦又樂園と稱せられ殊に其金融無欠の國體の如きは萬國に比類なき一獨立國たる我大日本帝國の地理に於てをや

地理の種類 前節述る如く地理の用彼の如く大なるを以て其説くべき區域も頗る廣漠なり故に學者之を分ちて三種の大別をなし以て之を解説するの便に供す

- (一) 數理地理 (Mathematical Geography).....天文地理
- (二) 自然地理 (Physical Geography).....地文地理
- (三) 政治地理 (Political Geography).....人文地理

數理地理は星學及數學の上より地理を説き我地球を一の行星と見做

し其形狀(橢圓體)地軸(三千二百三十七里余其兩端即南北兩極なり)赤道(直經地軸より十一里程長し)周圍(一萬〇二百十里餘)表面(凡そ三千四百三十八萬方里)及び其運行(自轉と公轉又日動年動など)も稱す)運行の結果(晝夜、四季、夏至、冬至、春分、秋分等)經緯線、二至線、兩極圈、五帶(南北寒帶、南北溫帶、熱帶等の諸事を究むされば或は之を天文地理とし以て地文、人文に相對せしむるものあり)自然地理は地上に見はるゝ所の天然顯象を説明するものにして水陸の區分(六大陸、五大洋)、山脉、河脉、島嶼、岬灣、潮流等より空氣の壓力、溫度、濕度、運動、氣候、天產物(動物、植物、礦物)の分配等に至るまで皆自然地理の論すべき處にして世に所謂天變地異就中暴風地震の如きも之に屬す世に地文と稱するもの即是なり)政治地理は天然現象にあらず人爲により見はるゝ地上の諸顯象を説くものにして人類の區別、產業の種類、開化の程度(野蠻、未開、開化)從て國家、政體(君

主政治、共和政治、宗教、國語、人情、風俗の異同、商業、貿易及び運輸交通の如何等をも論ず或者の人文といふは即是なり
上の三種の外猶其餘の深きにより歴史、商業、農業等には殊別に其等の名を冠むらせたる特立の地理ありて其等の學者に取りては頗る必要なり借今余の講せんとする地理は是等の殊別なる地理にあらずして唯單に日本地理といふ大なる名稱の下に在りて其意稍漠然たるが如きも以爲らく諸君は今後其學級の進むと共に其學科も亦進みて諸般の學科目を履修せられ因て各種地理に就ても夫々に學ばるゝ時機あるべし今に方り余の盡すべき處は成べく多く諸君の後日を裨益せんことに注意し遂に一方に偏するは反て不可なるべきにより力めて之を制し先づ數理、自然、政治、三地理を交へ説き併せて歴史及農商工等に於て著しき點をも擧げ講せんと欲す要するに諸君の腦裡に日本地理

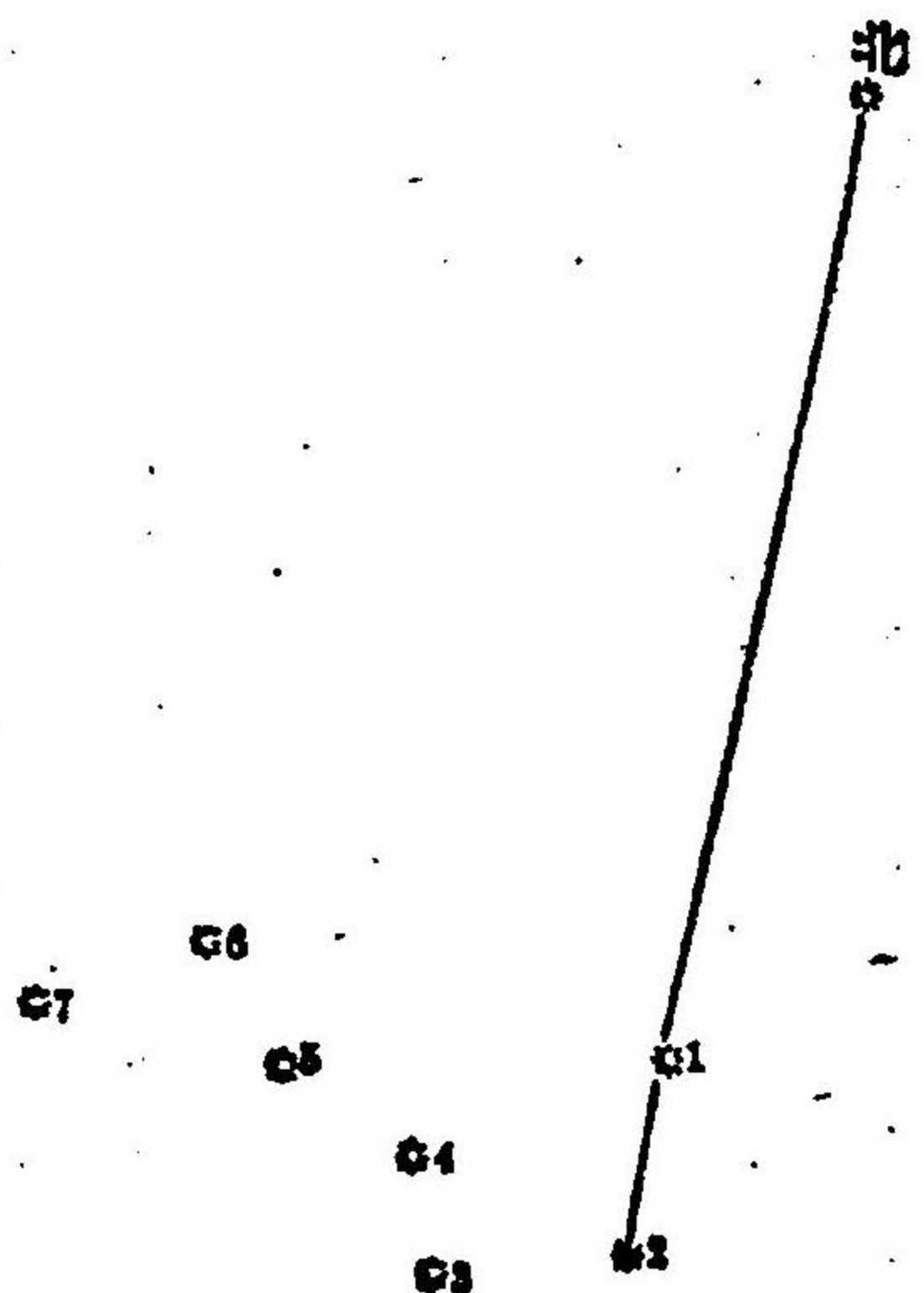
の大基礎を建立せんとするに在るなり諸君之を諒し給へ
 緒言を終るに臨みなほ一言すべきは地理の講義といふものは兎角無
 味淡白に陥り易く且往々徒らに無秩序に事實を臚列したる地理書さ
 へありて世間俗流の徒は唯地名と地理に關する統計とを學習するを
 以て地理學とするが如し是實に斯學を解せざる輩のいふ所にして若
 し果して人ありて地理を此の如きものと認め平然之を講じなば此普
 通教育中尤大切なる一科は憐むべし其眞味を解せらるゝとなくして
 殆んど何等の効をも見る能はざるべし然れども無論地理には地名も
 統計も甚大切なり故に忽に忽にすべからず是地理學の殊に記憶を尊ぶ所
 以なり余は上に述ぶるが如く種々の點より説き其利益を顯揚すると
 同時に興味ある故蹟名勝等も間々挿み説き以て及ぶ丈け其無味枯燥
 に陥ることを避けんと欲す

總 論

方位及經緯線 方位とは東西南北四方の方角をいひ經緯線とは便利
 上地球表面に施したる縦横の虛線をいふこの兩つのもはすべて地
 理を學ぶに當りて第一の必要物なるを以て聊か左に講説せんさて東
 西南北の方角を定むるにも種々の方法ありて(一)磁石、皆人の知る通
 り世に磁石針といふものありて其針頭は常に北方を指すものにして
 平生座右に備ふるにもまた携帯するにも一小針にて事足るを以て至
 極便利の器械とす然れども精細にいふときは磁石の指す北は必ずし
 も眞の北方と合同するものにあらずして時により場所により多少の
 變化あるを免れざるものなることを知り置くべし(二)太陽、太陽は尤
 便利なる方位器にて吾人の見る所にては毎朝東より出で、毎夕西に
 没するものなれば以て方位を知るに足るなりなほ同理にて其をたし

かに知る法は一本の長き竿を地上に立て、其影の尤も短かき時を測るなりそはいつも太陽最も高く中天に在るの時即ち日中(正午)に在りこの時其影のさす方を正北とし従て太陽のある方を正南とするなり

(三)北極星、又北辰といふこの星は其位置正北を占め我地球の地軸を延長したる天の方位に在りて常に其位置を變動せざるものなり(他の衆星は皆北辰を中心として其周圍を廻る故に古言にも北辰其所に在りて衆星之に向ふが如しといふなり)故に方位を定むるにはこの星を以て屈強の標準とすべきなり諸君晴夜天空を熟視する時は無数の星群の中、圖の如く七箇の星の一行をなすものを認めん是れ即ち北斗七星なり其内の12二星の方向を追ひて視線を進むるときは兩星間の距離の五倍の處に一星を見ん其光は別段著しく強からざるも是いはゆる北極星にして其方即ち正北なり東京にては此星頂天と地平線と



の中央より稍下りて見ゆるも吾人北に進んでやまされは遂にこの星を正しく頂上に仰ぎ視る所に至るべし而して其時に吾人の足の踏む所は地球の北極にして正に地軸の北極端上に立つなり以上三法何れに據るも四方の中一方たどへば北をだに知ることを得ば餘りの三方は自ら知り得るなり即ち吾人北方に面して立つときは其背は南にして右手は東左手は西を示すなり次に又四方の中間をとり名を命じ第二の方位とす即ち北と東の間を北東、東と南の間を南東、南と西

Handwritten note: 此星頂天と地平線と

との間を南西、西と北との間を北西といふ
経緯線 已に方位を知り得たる上は以て某所は某所の何方幾程の距離にありなむ始めて場所の位置に付てしかといひ得べし然れども一所を示すには此地を取て標準とし又他所をいふには彼地を取て標準とするが如きときはたとひ方位距離等はたしかなるもなほ紛亂錯雑を免かれ得ず況んや廣大なる地球の表面に於てをやまた況んや諸君も知らるゝ如く球體なる我地球に於ては東の先にも東ありてあくまで東するときは遂に西に來りいはゆる球の端なきが如きに於てをやされば學者地球表面上に縦横の線を畫き以てこの紛雜に備ふ是即ち経緯線にして只だ學問の便利上設けしのみにして決して其實かゝるもの地上に存するにあらざるなり扱北極は上に述べたるが如し北極の正反對の所を南極とす即ち地軸(地軸はなほ獨樂の眞棒の如く地球の

真中を通ずる假定線にして地球は此に依りて回轉すと想像さるゝものなり)の南端なりまた兩極の正中にありて東西に畫かれたる假線を赤道とす赤道を三百六十に等分し其各點と兩極とを貫きて地球表面上に畫きたる假線を經線といひ又子午線と稱す子午は十二支の鼠と馬にして北南の義なり即ち正南北線の謂なりまた極と赤道との間を等しく九十分し其各點を通じて赤道と相並行して東西に畫かれたる假線を緯線といふ即ち地圖を開き見るときは地球表面に引かれたる縦線は經線にして横線は緯線なり經緯線は即ち經度緯度を表示するものにして緯度は赤道を起點とし此を零と定め極を九十度としまた赤道より北極に至るまでを北緯とし赤道より南極に至るまでを南緯とすたとへば我東京は北緯三十五度にありといふは赤道以北三十五度の緯線上に在りといふ義なるなり緯度を實際の里數に換算する時

は一度は二十八里餘となるなり然るに經度には之を計算するに赤道の如く便利なる天然の起點なし故に従前は國々により起點を定め統一する所なく頗る不便なりしを以て先年米國ワシントン府 (Washington) に開きたる萬國子午線會議の決議により經線の起點を英國グリーンニ非ツチ (Greenwich) 觀象臺と一定し各國一般に彼地を通過する經線より起算することゝなれり是を本初子午線と稱す而してかく一旦起點を定めたる上は終始この規定を遵守して逸ふべからざるなりされば經度を計るにはグリーン非ツチに於ける經線を零とし其より以東を東經以西を西經とし東に百八十度西に百八十度數ふるなり東西百八十度の一經線は正に起點經線の眞裏マツカに在りいま我東京は東經約ね百四十度マツカにありといふは英國グリーン非ツチより東百四十度の經線上にありといふ意味なり(因に云ふ一度を六十等分して其一分を分マツカと名づ

け又一分を再び六十等分して其一分を秒と名づく又經度の長さは赤道にて尤も廣く赤道を距るに従て狭くなり我日本の中央なる北緯三十五度と交はる經度の廣さは一度二十三里三町餘とす(かく經緯度を定めたる上是を地圖の上にあらはす時は諸君の見らるゝ通りの縦横線となり恰も地球の表面に網を被らせたるか如くなるなり而して後經線緯線共に一定の起點より東又西に何度何分北又南に何度何分と計り以て全地球表面いかなる場所もいさゝかの差支なく容易に其の位置を計り知ることを得是經緯線第一の用にして其地理學上に必要なるも是によるなり其他重なる用に附て一言せば經線は時間を計る上に甚だ肝要にして我地球は一晝夜二十四時間を以て地軸を一回轉すれば四分間には經線一度を進むの割合一時間には十五度を進むの割合なりされば世界各地皆時間に差ありて太陽我日本の眞上にある

とき即ち我正午には諸外國は正午なること能はず殊に日本の眞夜^トの國例へば南亞米利加洲のウルグアイ(Uruguay)に於ては特に正午の刻即ち眞夜中又英國にてはなほ午前三時頃なるなり我日本國內に於てすら極東なる根室と極西なる沖繩とは時間の差凡そ一時四十秒の遅速なり是に於て標準時を定むるの必要起り明治廿一年以後は東經百三十五度の子午線(紀州と淡路島との間なる由良海峡正に此線路にあたる)を我國一般の標準時と定め太陽此線上を正射する時を以て我日本^トの正午とし是より以東の各地は標準時より進み、以西の各地は後るゝなり故に東京にては略二十分、京都にては三分、大坂にては約二分のすゝみなり、かく經度の差違によりて時間の差を知り得る如く緯度は又以て氣候寒暖の差を概知すべきなりそは地球の表面にて赤道部は太陽光線の直射する所にて尤も暑き地方なるも赤道を遠ざかるに従

ひて太陽の光熱を受るとこ漸く減じて寒冷となる故に緯度の差は直に寒暖差を表するものとなすに足るなりかゝる理由よりして地球の表面を五帯に分ち以て大體氣候の差等を示すの法とす而して其分界は(一)回歸線(回歸線とは赤道線と並行し其南北各二十三度半の處に畫ける二圈をいふ其中、北にあるを北回歸線また夏至線といひ南にあるを南回歸線また冬至線といふ)(二)兩極圈(兩極圈とは亦赤道線と並行し南北兩極より各二十三度半の處に畫ける二圈をいひ其中、北にあるを北極圈、南にあるを南極圈といふ)の二者を以てし(一)南北二回歸線の間を熱帯と稱す即ち地球上尤も熱き地方にて赤道其中央にあり(二)回歸線と兩極圈との間を温帯とし北なるを北温帯、南なるを南温帯と稱す寒熱中和の地方にして我帝國は實に北温帯中に在り故に氣候温暖にして熱からず寒からず尤も人生に適する處とす、(三)兩極圈内を寒帯と

北なるを北寒帯南なるを南寒帯と稱し兩極其中心に當る此帯は其の名の如く返寒地方にして畜に人生に適せざるのみならず草木さへ生殖すること能はざるなり
帝國の四至 四至とは四方の至る限りをいふ今我帝國境域の四至を擧ぐれば左の如し

經度極點

極東 東經 百五十六度三十二分 (千島國、占守郡、占守嶋東端)

極西 東經 百二十二度四十五分 (琉球國、與那郡、國嶋西端)

東西兩極端經度の差 三十三度四十七分

緯度極點

極南 北緯 二十四度六分 (琉球國、波照間嶋南端)

極北 北緯 五十度五十六分 (千島國、占守郡、アライト嶋北端)

南北兩極端緯度の差 二十六度五十分

右經度緯度によりて地球上に於ける我國の位置は容易に知り得べきなり

帝國の四境 我國地球上の位置は經緯度を以ていふときは前述の如きも又地理學上全世界水陸大區分の上よりいふときは我國は亞細亞大陸に屬して其東端、又北太平洋(太平洋を赤道にて兩分し北を北太平洋、南を南太平洋と稱す)の西隅に位し東北より西南に至る一箇の列島より成る而して其境域は北は正にオコソク海(Sea of Okhotsk)の南界を爲すオコソク海は魯西亞領サイベリア(Siberia)を以て北東西三方を包まれ東にカムチャツカ(Kamchatka)半島出で西に樺太島洋人之を Sagalien Island と呼ぶ横はる共に海峡を以て我北地と相對す次にまた我國の東と南とは全く太平洋に面し對岸米國に至る洋上四千數百哩(橫濱よ

り太平洋を横きりて米洲合衆國サンフランシスコ(San Francisco)に至る四千七百五十哩又英領カナダ(Canada)のバンクトリヤ(Victoria)に至る四千三百二十哩あり但し涇は海里にして一涇は凡そ十六町九分七厘五毛なり涇即ち英里と混すべからずあり西は日本海及び支那東海に接す日本海の對岸の地北半は魯西亞領滿洲南半は朝鮮なり朝鮮の半島地遠く南出して日本海の西壁をなし亦海峡を隔て、我九州と相望む而して支那東海の彼岸は支那帝國本部にして其屬嶋なる臺灣は我極南琉球と近く相連り以て支那東海の南界を爲す

附言

第一 一州一國の四方の境界を述ぶるに當り東をいふかど

思へば忽ちにして北をいひ又南に西に移るか如き時は頗る紛雜を招き易しされば從來我國にては東西南北と順序をたてしも今日地理を學ぶものゝ通則として先づ北を述べ次に

東にうつり次に南より西に及ぶなり注意すべし

第二 地圖の如きもむかひは紙面の上下左右何方なりとも随意に東とも西ともして便宜に任せたりしが今日は通例上を北とし下を南とし右を東左を西と定むるものなれば地圖を開き見る時は各其心得あるべきことなり

第三 地理を學ぶものは座右必ず地圖を備へ常に自ら參看して其聞く處を解き悟らざるべからず今日本地圖の發行せられたるものは實に多しといへどもさて是こそ諸君の參考として十分適當なれといふべきは少なし余は先づ東京神田區會學三省堂出版頼野氏増補の帝國新地圖を以て諸君一時の用に供せられんことを望むこれなほあるがなかにて余の尤も適宜と認むるものなればなり但し帝國新地圖には舊版と

新版との別あれば注意して新版増補の方を求めらるべし

四大島及其他の島々 我日本帝國は上述せし通り北太平洋西隅の一列島より成り北はカムチャツカ半島角より南は支那本部まで弓形に相連り亞細亞東部の美觀をなす故に花彩列島の名あり其南北兩端は數十の嶋殆んど一線狀をなし又中ほどには大なる島四箇あり四大嶋の中尤も大なるものを本嶋といふこれ帝國の本土中國とも稱すべくして中央にあり次に大なるものを蝦夷嶋とす本嶋の北にあり其次は九州四國二嶋とす本嶋の西南に相並びてあり而して南北の二列嶋中北なるを千嶋と稱し西洋人クリル(Russ)諸嶋と名づく蝦夷嶋の東端とカムチャツカとの間に連り南なるを琉球といひ九州嶋の南端と臺灣嶋との間にあり其他屬嶋ともいふべきは本嶋には北に佐渡、隱岐、兩嶋あり南に伊豆七嶋其南に八丈嶋また其南遙かに小笠原群嶋、硫黃嶋

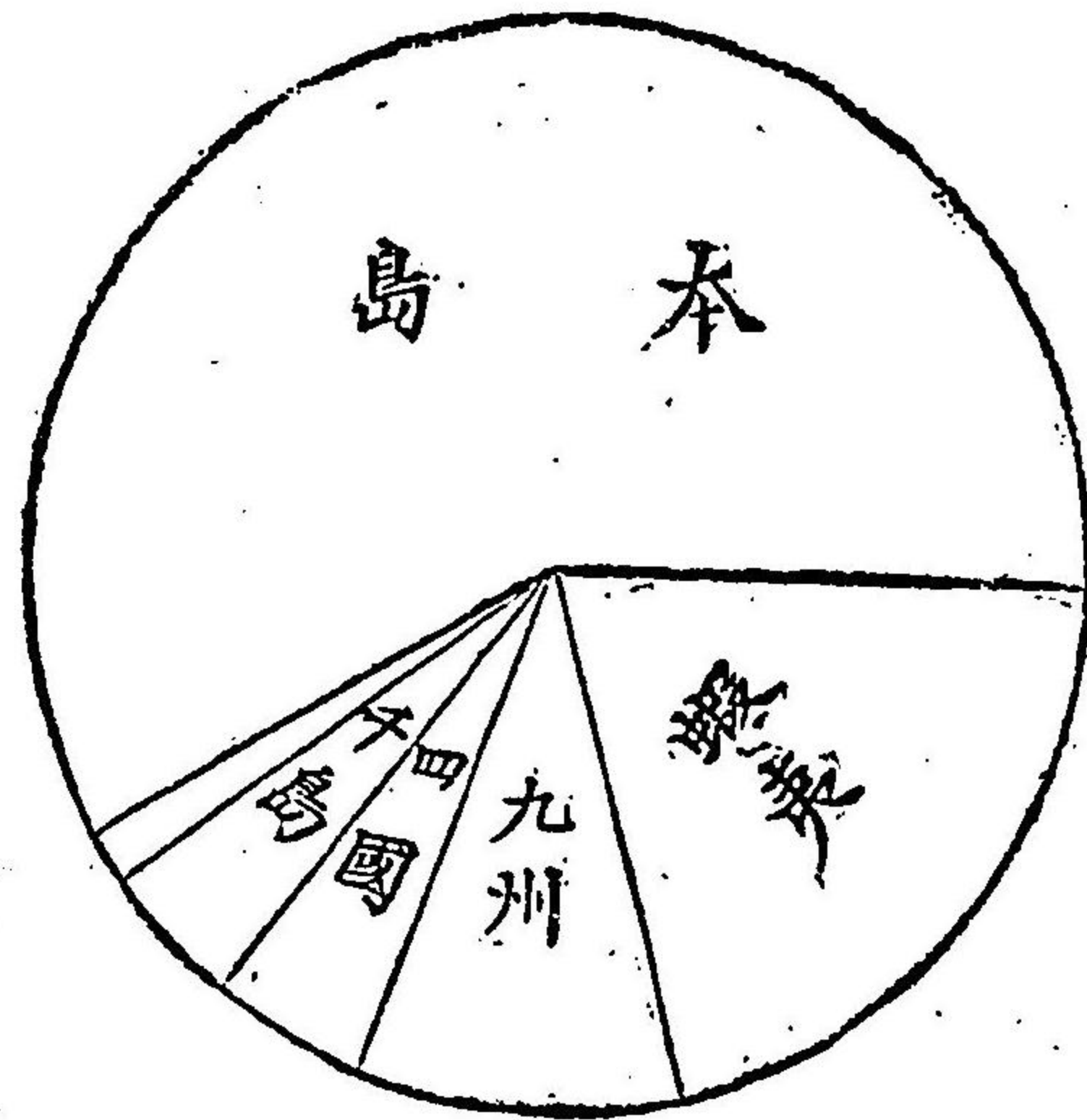
等あり七嶋以下も本嶋中部より南方に殆んど一直線を爲して相連る次に九州島には北に壹岐島、對馬島ありて朝鮮に連り西に五島、天草嶋あり南に種子ヶ島、屋久島ありまた本島と四國島との間に淡路島あり是等尤も著しきものにして其他沿海島嶼に富み殊に九州島の西方及び南方と本島の西南部と四國九州二島との峽間とを以て尤甚しとす因にいふ古來我國を稱して大八島、國といふは則ち本島、四國、九州(筑紫)及び淡路、壹岐、對馬、隱岐、佐渡、八島の總稱にして今日帝國の境域と比較する時は蝦夷嶋、千島、琉球等少なし猶増田于信氏の日本歴史講義第二十七頁を參し見よ又西洋人我國を稱してジャパン(Japan)といひ本島をニホン(Nippon)といふは大なる誤にてジャパンとはもと日本の支那音今日彼國の音にては「日本」を Yatsu-pun 又は Jih-pun と發音すに出たるなるべくニホンは我日本といふ音を寫せしこといふまでもなければシ

「ヤパン」といひ「ニホン」といふも同一語にして更に其差なく共に我帝國全体に用ゆるは可なり其一嶋に用ゆるは素より従ふへからず面積 前節に四大嶋及び屬嶋等を略説せしを以て今左に其屬嶋の數及び各嶋面積を表示せん(但し屬嶋の數に端數あるは一嶋にして兩地に屬するものあるに由るなり)

屬嶋	數	面積	百分比
本嶋	一六六五	一四五七一 ^{方里}	五八、七七
蝦夷嶋	一一〇	五〇六二	二〇、四二
九州嶋	一五〇〇	二六一八	一〇、五六
四國嶋	七四五	一一八一	四、七六
佐渡嶋	—	五六	〇、二三
對馬嶋	五〇	四五	〇、一八

淡路嶋	一〇	三七	〇、一五
隱岐嶋	一〇	二二	〇、〇九
壹岐嶋	一〇	九	〇、〇三
千嶋	三十	一〇三三	四、一七
琉球	五十	一五七	〇、六三
小笠原嶋	十七	五	〇、〇一
全國	四一一	二、四七九四	一〇〇

右表の中第三段の百分比は各嶋の面積を比較するに頗る便利にして全國の面積を百として各嶋の占むる割合を示せしものなり今この比例により我全國總面積を一個の圓を以て見はす時は各嶋面積の比例は左圖の如し但し圖中千嶋の左の一區畫は本嶋、蝦夷、九州、四國、千嶋諸島を取り除きたる餘分の面積の合計と知るべし



四大島形状及び圖法 我帝國全體は前にも説きし如く亞細亞大陸の東部に掛りたる一連の飾り紐の如くまたしめ繩の如し而してカムチヤツカ半島、樺太南岬、朝鮮半島、台灣島等は實に其の兩端と中間とのくゝり目を爲し四近の四海即ちオコソク海、日本海、支那東海、及び太平洋を限界するなりまた其の中部なる四大島は合して之を見る時は其狀を張りたる弓の形によく似たり是等四島は全國中尤も大切なる部分にしてよく知らざるべからざるに依り今なほ聊か其の外形を説かんとす蓋し其外形の何物に似たるや等の如きことは大

に諸君の記憶を助くるに効ありて之を説くも決して徒事ならざるを信す

蝦夷島即ち北海道本地は其の形状かえといふ魚の遊泳するが如く東を頭とし西南を尾とす即ち東端根室の灣其の口に當り將に千島列島を呑まんとして左右の鱗の端は宗谷岬(北端)及び襟裳岬(南端)とす而して膽振後志渡島三國は正に其尾部に屬し尾端渡島は本島の北端と相對す次に本島の形状に付ては古來種々説を爲すものありて或は龍の天に蟠るが如しといひ或は蜻蛉空に飛ぶに似たりなといへども余はむしろ之を北方より見るときは平假名のくの字の形に似たりといふ説の妥當なるに従はんとす即ち西長門より書きはじめ東京近傍にて曲げ北陸奥にて書き終りたる一大くの字なるなり今姑く東京を以てくの字の曲り角と想像するときは長門の西端に至るまで直徑二百餘

里又陸奥の北端まで百八十里餘ありて即ちくの字の前部後部より長きこと二十里餘にあたる次に四國島は北に二岬南に二岬東西にも亦一對の岬角ありて其形稍蝙蝠の飛ぶが如し北の二岬は巖岐の三崎と伊豫の大隅岬なり南の二岬は土佐の室戸岬及び蹉陀岬なり又東西の二岬は阿波の撫養のはなど伊豫の佐田岬とす次に九州島は古へより其形猿猴に類似せりといふは可なり但し猿猴の立像にして背面より見たる状の如き歟即ち豊前筑前其頭部に當り右手は豊後の國東半島左手は肥前而して兩足は大隅薩摩兩半島國之にあたるなりしかも其少活動の氣を帶ぶるが如き稍猖々の舞をまふの趣ありといふべし右述る所のあかえさかさくの字蝙蝠猿猴に似たる四大島即ち我帝國の主部を簡易に描寫すべき法ありてこの講義の劈頭にもいひ置きし如く余は諸君の自ら白文圖々らひは書かれたんことを希望するに依り

今茲に其描寫法を示さん先づ別紙附圖を一覽しなほ其解説と照し合すべし

描圖法略解 我國の描圖法も種々あるが如きも今余の據る所のもの

は明治九年十二月文部省出版地理描圖法中の一編日本描圖篇にして宮本三平氏原撰なり其上に余私に一二補足する所ありこの法に従て日本圖を畫かんには僅に尺度一本と三角定木一枚(二枚あらば尙ほ可なり)にて充分にして頗る簡便なり先づ(一)其の畫かんと欲する圖の大きさに應じて長くも短くも相當に一直線を五十九度に傾けて引け是第一の主線にしてイロと符號を付す而して五十九度の角度を得んには三角定木の一角は實に六十度なるを以て其角度より少しく内端に測り取れば可なり(三角定木角度の事は幾何畫法講義に就て見るべし)其の直角は常に描圖に必用なり(二)次にイロの線を等しく十分し其の三

分の長さをイ、ロ線の中央より直角に引きハ點を得なほハ點とイ、ロ兩點とを直線にて連ぬべし(三)次にハ、ロ線を五分分しロ點より右にイ、ロ線に直角に一直線を畫がきまた10點よりハ、ロ線に直角に一直線を引き兩線の相交る點を求めニと記しニと11點とを結び其の餘りを少しく延長し置くべし(四)主線イ、ロ十分の一の半なる長さを取りそを亦ロハ線上の12點より右方に直角に引きホ點を得其點を11、12兩點に連ぬよ(五)イ、ロ線上の9點よりロハ線に並行なる直線を畫き其の儘イハ線外に延長すべしイハ線と交はる點をヘとす(六)並行線は三角定木二枚にて畫くを便とす(六)イ、ロ線十分に其四分一を加へたる長さを測り之をイ、ロ線上の1點より直角に左方に畫きト點を作り其點をイに結びまた3點と連ぬなほ延長して9へ線を切らしめヲ點を作るべし(七)イハ線の中央ヲ點を求め3、1兩點と直線を以て連ぬ(八)次に3、4線の中央

ヲ點を求め又ト、イ線を三等分し其上の方の點なるヌ點とリ點とを結び合すべしかくてこの圖法の基野は全く成れり而して後其野に賴りて四大島の圖を描くなりたどへばロ、ニ11の三角内に蝦夷島の大部を畫き11、ホ13の三角内に陸中及び陸前東部を畫くが如しなほ委曲は付圖を熟覽して覺らんことを望む唯この基野中イ、ロ等の要點は實際何れの地に當るやはよく記せざるべからず

- イ……………大隅國、佐多岬
 - ハ……………下總國、大吠岬
 - ホ……………陸中國、龜ヶ崎
 - ト……………肥前國、平戸
 - リ……………淡路島、左傍
 - ニ……………北見國、野、斜布岬
 - ロ……………根室國、花咲港
 - ホ……………東京灣、内上總國、海上
 - ト……………紀伊國、沙、岬、左側
 - リ……………肥前國、野、母岬、右傍
- 其他各線ノ區分即ち5は線の三等分、又たロ、ニ、ニ11兩線の三等分、9へ

線の七等分、ハ、チ間の四等分、ト、ヲ線の七等分、3チ及びチ、1兩線の三等分、リ、ヌ線の六等分等は皆實際地圖を描くに當りて大に便利にして其等の區分點を目標とし其の上下、左右、遠近により適宜に畫き得るなり例へば能登半島角、下、關海峽、遠江の國の御前崎、土佐の二岬等皆其の點には中らざるもや、遠がらざる處に在るなり

なほト、イ線を南北に(圖の上方を北とす)延長するときには北に延せし方はト、イ線の三分の二の長さにて朝鮮沿海に達し其の中間に對馬島あり南に延せしものは大隅國種子島^{ウチノシマ}の左に出づ、其の他ヲ、ト線を西に延せば肥前、五島の北を過ぎ、ロ、イ線を南に延せば大隅、屋久島の西より薩摩群島に達し、またヌ、リ線を東に延せば正に攝津の大坂、尾張の名古屋二大市を貫き、ヲ、ト線の分點16より直角に一線を引けば隱岐島の東にあたり、ヲ、リ兩點を連ねれば佐渡島其の線上に横はり、またチ、ハの中央

ルと14點とを結びそを三等分するときには上の點は九州の國東半島に當り下の點は四國の西南海岸に近し、また各線の長さの如きも之を知るは便益あることなるにより圖法右傍に示す所の里法により豫め測り見て記應せよ

海岸線 前節四大島の外形并に其の描圖法等を説きしに因み今進んで我國の海岸線を講せんとす海岸線とは其の名稱の通り陸地の海水と相接する限界即ち海岸の謂にして重に其の長短屈曲の如何等を攻究するなり其の長さは海岸の屈曲即ち岬角半島の遠く海中に突出し港灣、入江、内海等の深く陸地に侵入するあるにより短かきは是等の屈曲の乏しきによるなり

海岸線は何れの地に於ても多少不規則に出入屈折するを常とす然れども間々殆んど一直線なるもありて我國の北、日本海に於ける海岸線

と東南太平洋に於ける海岸線とを對比するときはその間一大差別あるを見るべし日本海々岸線は概ね一直線状をなし僅に數箇の突出地を見るのみ其の中著しきもの三箇あり一は蝦夷島にあり即ち積丹岬シヤムシ神威岬の地とす其の東に石狩大灣ありこの大灣は殆んど蝦夷島日本海海岸線の中央にあり他の三箇は共に本島にありて其の中本島中部より長く北方に斗出するを能登半島とす日本半島中尤も大なるもの一なり其の東邊に二灣を抱く北なるを七尾灣とし南なるを富山灣とす次に能登より西南に一大岬あり丹後の經岬とす東越前の地と相對して若狹丹後の大灣を抱合す其の他屈折ある地は北に羽後の男鹿半島あり西に出雲の島根半島あり共に湖水を擁する一對の半島なり其の他北海數百里の海岸は概して屈曲乏しく從て港灣なし然れども悉に西南に偏しては形勢一變し長門より九州島の北岸にかけて出入甚

だ多く長港灣にも乏しからず

太平洋海岸線は日本海々岸線と相反して頗る屈折に富み先づ蝦夷島の南角襟裳岬は形刀鋒の如く鋭く海表に突出し西遙に渡島の惠山岬と相對し其の間膽振の繪柄岬あり西に噴火灣を抱く本島にては陸奥に有名なる尻屋崎あり亦東北襟裳岬と相對し其より以南陸中陸前の海岸は恰も犬牙の如く無數の小出入あり遂に陸前の牡鹿半島となる名高き金華山はこの半島の端に在り西に松島灣あり是より以南下總の犬吠岬に至るまでは海岸線大灣曲をなし港灣に乏し犬吠岬より南は上總安房の半島地にして西相摸の三浦半島と相對して東京灣を包みまた相摸灘を隔て、西南伊豆半島と相望む伊豆半島の西を駿河灣とす而して遠州灘七十五里の海岸は港灣少きもなほ東に御前崎西に伊良崎出で中間濱名の入江あり伊良崎崎西志摩と相對して三河尾

張伊勢に亘る一大灣(衣ヶ浦、伊勢内海)を成し志摩より紀伊の東西岸は
 一帯に小屈折多く極南を沙の岬とす紀伊の西面は四國島の東面と相
 向ひ其の水深く北に入りて大坂灣及び瀬戸内海に通ず四國島は東に
 阿波の蒲生田岬出でまた南土佐二岬の間は一大灣曲を爲し土佐灣と
 名づく西面亦鋸齒の如く遂に佐田の長岬となり九州島豊後の佐賀關
 と相對す九州島東岸佐賀關以南も同様に小出入多く日向に亘る日向
 の南隅大隅の東に内浦の一灣あり大隅の南端は即ち佐多岬なり西薩
 摩と共に鹿兒島の大灣を擁す此の如く太平洋の海岸は大岬大灣續々
 相運り曲折尤も多しこれ我國の地理上大切な一事とす
 日本海、太平洋、兩面海岸線の大要は右の如し今なほ其の餘を説かん先
 づ蝦夷島の東と北との海岸は殆んど同形の大小二灣弓を爲し北を北
 見とし東を根室とす中間に知床岬あり北見海岸一帯屈曲に乏しく根

室は南界に納沙布岬東に出で、根室灣を西に抱く花咲港は其の南に
 在り次に蝦夷島と本島との間を津輕海峡とす海峡の水北、蝦夷島に灣
 入して函館港となり南、本島にては陸奥内海を成す其中又數灣に分る
 次に本嶋と四國島との中間に淡路嶋横はり三箇の海峡を爲す其のう
 ち由良、明石の二海峡は本島と淡路島との間、鳴門海峡は四國嶋と淡路
 島との間をいふなり而して由良、明石二海峡の間の一大灣を大坂灣と
 し明石、鳴門二海峡より西、下の關海峡に至るまでをすべて瀬戸の内海
 といふ下の關海峡は本島西端と九州島北端との間の海峡なりまた其
 の内海の南界は佐賀の關海峡とすこの内海は即ち前に述べし如く島
 嶼密布し沿岸又屈折甚だしく至る處港灣あり凡て五灘二灣(播磨灘、水
 島灘、隱灘、硫黃灘、周防灘及び兒島灣、廣島灣)とす次に九州の西面は實に
 出入尤甚だしく北肥前には松浦、彼杵、兩半島西北に出で、大村灣を抱

き野母岬又西南に出で、長崎の港を作り其東に島原半島出で、東筑後肥後の地と一大灣を成す之を有明沖また筑紫灣といふ島原半島の東に肥後の宇土郡の半島あり南に天草群嶋星羅して遠く薩摩に連り其間幾多の海峽内海を作る薩摩の海岸は稍港灣に乏しく南に野間岬出で支那東海を隔て、遂に支那國の上海と相對す上海は彼の國に於ける尤も貿易繁昌の港にして各國の商賈輻湊す我長崎より航路四百七十哩あり

我國の海岸線の有様は大略右に述ぶる如くにして四大嶋諸列島屬島を合算するときは全長七千〇二十九里余あり(海峽六十二、港灣四百六箇所あり)而して其の長短は實に一國の文野に大關係あるものにして其の延長せるは港灣、入江、内海等に富むによるを以て従て船舶交通の便利多く貿易商業大に興り其の國の開進を促すこと大なり故にかゝ

る地方先づ文明に進み繁榮に赴くなり我一國の上にあつても繁華なる海港場は多く南海岸に在りて概して南面地方は北面地方より早く開化に進み巨市大都陸續たり殊にかの瀬戸内海及び大阪灣沿岸地方の如き尤著名なるものとす我國商業の中心なる大阪は實に其灣頭に在るにあらずや又試に我日本の海岸線の延長を以て六大洲と比較する時は左の如し

日本	海岸線一里に對する面積の比例
日本	三、半
歐羅巴洲	四六九
亞細亞洲	八九五
北亞米利加洲	二六五
南亞米利加洲	四三四
濠太利洲	三三〇

されば六大洲のうちにて海岸線の屈曲尤甚しきは歐羅巴にして北亞

米利加之に亞ぐ而して其尤少なきは亞弗利加なり故に歐米阿大陸は此點に於ては尤多幸なりといふべし然るに我日本は僅に三方里半にて一里の海岸線を有する割合にて歐洲の上に出ること數等にして其國の形勢自然開明に進むべき天恵に與ること此の如く大なり況んや百年以前蒸氣船發明以後遠洋航海の術順に一變し來り今日にては大洋を航することなほ陸上を行くと一般なるの時に於てをや海國たるもの決して其利を失ふべからざるなり

海流。大洋中にも自ら一定の流脈ありて其色及び速力等に於て傍近海水と相異なるあり之を海流(又は潮流)と稱す海流に赤道より兩極に向ひて流るゝものと兩極より赤道に向ひて流るゝものとの二種あり赤道よりするものは温度高きを以て暖流と稱し極よりするものは温度低きを以て寒流と稱す日本沿海には暖流寒流兩つながらありて暖

を流黒潮又は日本海流と名づけ寒流を親潮と名づく

(一) 黒潮。黒潮と稱するは其海水尋常の潮色と異なりて著しく黒色を帯ぶるを以てなり黒潮の起點は赤道の北にありていはゆる北赤道海流と稱するもの西流してヒロピン群島(Philippine Islands)に衝突して其方向を北に轉じ台灣呂宋の間に至り始めて黒潮の稱を得其後台灣の東より琉球諸島の西を流れ大隅の海峡を過ぎて四國紀伊の南海より直に伊豆諸島に達す其御倉嶋と八丈島との間に於ては流域殊に判明にして恰も一條の河流の如し故に世に黒瀨川の稱あり是より方向稍北に轉じ房總半島の東邊を経て犬吠崎に達しなほ進んで北方より來る寒流即ち親潮と會して勢力減じ流域散漫し方向もまた變じて東北に向ひ我沿海を離れて遠く太平洋に出づ黒潮海流琉球の西を流るゝ際一の支派を生ずこの支流九州島及び肥前五島の西を經對馬島の東

に沿ふて日本海に入る因て對馬海流と稱す而して日本海に入りし後は其の東部を箱本島に近く東北流し已にして二分し一は津輕海峽を経て東太平洋に出で一は蝦夷島の西に沿ふて流れ宗谷海峽よりオホツク海に入り其の跡を失ふ次に黒潮海流の廣袤は風勢の強弱と氣候の寒暖とにより差違あれども平均百海里内外ありといふ所謂黒瀬川に於ては其の幅二十餘町ありまた温度速力等も季節により異なりて台灣より琉球の間に於て夏季の平均温度は二十七度にして四近の海水温度より四五度高し冬季は二十三度に減じ同所海水温度より高きこと二度餘なり然るに北寒流と接する邊に於ては爲に温度俄に下りて漸く六度乃至十一度に至る支流は本流に比すれば概して寒冷にして同緯度の地に於て本流と二度の差を見るときいふまた黒潮の速力は日本海岸に於て一日平均夏季は四十八里乃至七十二里冬季は二十四

里乃至四十八里なりなほ場所により多少の差あり志賀重昂氏曰く黒潮の速力は紀州大島邊にては二十四時間に百里なり琉球以西にては二十里乃至三十里なりといふ假りに黒潮の力のみ依り帆走船の速力毎日平均十里宛駛走するものとするも六十日間に六百里を駛走す即ち尋常の帆走船は每一時間に平均六里駛走するものなれば百時間即ち四晝夜餘の利得あるものとす其の貿易航運に利便なること尠少ならずと好注意といふべし其の他我國より北太平洋を横ぎりて北米洲と往來するにもこの潮流を利用し其の往く時には黒潮末流に乗じて北緯四十度邊を進み歸路には布哇に寄り黒潮の原流なる北赤道海流に乗じ北緯二十度を航するを便とす

(二)親潮。親潮は其の流、黒潮と相反しオホツク海の東北隅より起りカムチャツカ半島の西に沿ふて南流し其の南端に於て同半島の東邊に

沿ふて南下し来る寒流と合し千嶋列嶋の間を流れて北海道の南より本州の東海を過ぎて犬吠崎に達し黒潮と合す其海水は暗濁色を帯ぶ又其幅、温度、速力等は暖流と同じく季候により差ありて幅は平均二百里ありといふも夏季は衰減して陸中の東岸の如き僅に岸邊の一細流に過ぎずといふ、また其の温度は黒潮より低きこと五度半乃至八度、又速力は冬季は大に増加し夏季は減少す是等諸種の點に於て黒潮と相反すること頗る重要なることなりとす其他オコック海の西北より來るものにて樺太派、リマン派と稱するものありて兩派共に其始はオコック海の西北部を南流するも樺太海峡に至り黒龍江(River Amoor)吐水力の爲に二分して一は樺太島の北を回り又其東海を南し千島列島に至りて親潮と交る之を樺太派とす、一は直に樺太海峡を過ぎて日本海に入り其の西部を流る之をリマン派と稱す春季北海道の沿海に巨大

なる氷塊漂流し來りて海路に大なる危険を與ふるは上の親潮及樺太派の運び來る所とすなほ海流の氣候及び物産に於ける關係の如きは頗る大切なる問題にして下條詳説する所あるべし

○山脈 前節説きし所の海岸線は即ち我帝國の輪廓なり此の輪廓内に山あり河あり平原あり湖沼あるなり而して我國は何れの地に行くも山を見ざる所なきはどの山國にして其の山水の變眩に富み人目を悦ばするに足るもまた其の山國なるに由るなり抑も山といふものは通例單に土地の隆然として高く天に峙つものをいひ其の意義稍漠然たるが如きも自ら一定の定限なきにあらずして世界陸地の平均高度を二千三百尺餘としこの平均高度より以上に聳ゆるを山といひ其の以下を丘陵と稱すまた山の永く連り脈を爲すを山脈といひ山脈の大にして且つ同一方向に長く駛走するものを山系と稱す

我國の山脉は其の方向北より南に向ひて走るものと西より東に向ひて走るものと二種ありて共に本島中央部信濃境上に至りて會す學者因て之を大別して樺太山系支那山系の二とす此の二大山系は即ち我國本來の骨格を爲すものにして爲に我國の形は弓形の彎曲を爲すなり樺太山系とは北魯領樺太島より來るを以て此の稱あるものにて進んで北海道に入り北宗谷より南襟裳岬に至り同島の中央を南北に貫き次で本島に入り其の北部陸奥陸中陸前の東岸に沿ふて走り松島灣に至りて絶え海を越えて復た磐城海岸に起り南常陸に連る武藏の秩父甲斐郡内の諸山もまた此の山系に屬し西して信濃の東南界に至る次に支那山系とは蓋し其の本源遠く支那本部に在り其の餘波海を渡りて再び九州に見はれたるものとすこの山脉は二分して九州の南部より起るものと北部より起るものとの二ありて南より起るものは

薩摩肥後の境より起りて中央部を北に走りまた東折して日向豊後に亘り佐賀の關海峡に至る次で四國島に見はれ同島の中央を東西に貫き再び海に没して紀伊大和兩國間の山嶺となり伊勢に連りまた伊勢内海を過ぎて三河遠江より甲信界に進む而して九州の北方より起るものは肥前筑前より赤間關海峡を越えて中國に入り其の中央を貫通して山城の北境及び琵琶湖北を環り美濃飛驒に達す、また我國は太平洋西岸の火山脈に當り國內火山頗る多く凡て百七十二座ありて全國面積五分の一は火山質より成るといふ火山に活火山死火山の別ありて活火山とは常に其の頂上より硫烟水蒸氣を噴き時としては猛烈發動して土灰燒石を飛ばすものをいふ信濃の淺間山の如き我國有名活火山にして現に近時屢鳴動し灰を降せり死火山とは一旦は活火山なりしも今は其の勢を失ひ多く頂上に其のむかし噴

火せし證として遺坑などを存するのみにして其の遺坑に水溜りて湖水を爲すものあり箱根の芦湖伊香保の伊香保沼の如き其の好例なりまた一時火山の如きも時ありて爆發し活力を復するものあり富士山は今は平安なる死火山なるも數十年を隔て、噴火するが如しといひかの廿一年七月俄然爆發したる磐梯山もまた昔日盛に噴火せしことありしも其の後久しく死火山の狀を裝ひたるものなりといふ故にこの種の火山には睡眠火山といふ稱あるなり

さて我國の火山脈も其の大體の形勢は上述せし二大山系と同しく北より來るものと南より來るものとありて本島に於ては互に相並行す

(一)北より來るものは魯領のカムチャツカより千島列島を傳はりて蝦夷島に入り同島を東西に走り遂に樺太山系と交り遂に南端に至り津經海峡を越えて本島に運る之を千島火山脈と稱す其の餘勢本島北部

の中央を貫き東樺太山系と並行して南に走り下野の那須山となり已にして漸く西南に折れ信濃境上に達し淺間山となる此の脈は那須山を以て其の盟主となし那須火山脈と呼ぶまた那須火山脈と並行し其の西に走る火山脈あり此の脈もまた陸奥に起り其の岩木山を以て起點とし南走して兩羽の中央を横ざり越後の東南境を成しまた信濃に至るこれを岩木火山脈といふ其の西なほ越後彌彦火山脈ありまた西南走して直に信濃に達すこの脈遙に羽後の男鹿半島なる寒風山と通すといふ(二)南より來るものは南洋諸島と連續するものにして支那臺灣島より琉球諸島を経て九州島南部に至り已にして日向の霧島火山となりなほ西北に進み肥後より肥前の島原半島に連り九州島の西北端に至るこれを霧島帯と名づく霧島帯九州島の西部肥後に於て一支脈を起し同島中央なる阿蘇山を生じ北彦山に連り豊前豊後の間に

磐結し東走して國東半島となり海を越えて四國島の北端を過ぎ淡路島より大和伊勢に連り三河を経て信濃に達す之を阿蘇火山脈といふ次に中國には北日本海岸に沿ふて東し遂に加賀の白山となり飛騨より信濃に達する一脈あり白山火山脈と稱す而して阿蘇白山兩火山脈は共に其の方向正に支那山系と同一にして互に相並行す然れどもこの二火山脈に於ては火山遠く相隔りて所々に噴起し殆んど一帯の山脈を爲さざるが如き觀ありこれに反して本島東北部より蝦夷島にかけての諸火山脈は頗る火山に富み前後連り聳ゆ

信濃はかく南北よりする諸火山脈もまた樺太支那山系も皆相交錯し衝突する所にして其結果遂に本島中部を横斷する一大火山脈を噴起し北越後より南飛騨信濃を過ぎ甲斐駿河を経て伊豆半島となり餘勢海に入りて伊豆七島八丈島となり遂に小笠原群島に及ぶ富士山實に

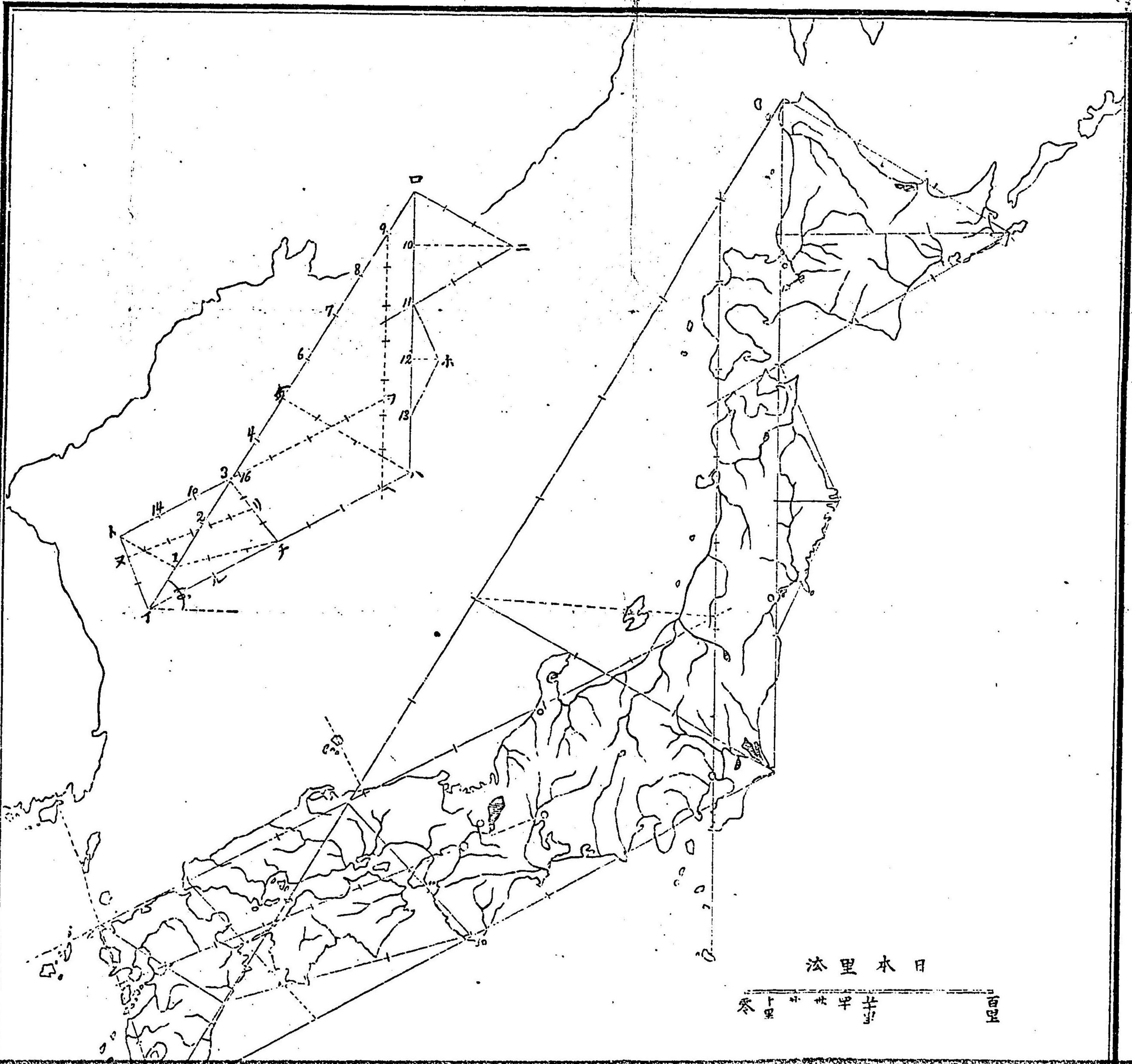
此の脈の盟主たり因て富士帯と稱す其の他佐渡島能登半島隱岐島の如きもまた一箇の火山脈を爲すものなりとし能登火山脈と名づく

なほ火山脈に因み述ぶべきは地震礦泉のことなり二者皆火山と親密なる關係ありて火山質の地に多しされば我國の如き火山國はまた地震國にして邦人は地震を以て危難の第一に數ふ然れども地震は火山の發動噴起の作用のみに依りて起るものにあらずしてまた地層内部の陥落に因りても發るこれを地這り地震と稱す而してこの種の地震の方火山作用の地震よりも反て震動の區域も廣く且つ我國の地震はこれに屬するもむしろ多しと稱す二十四年十月の濃尾大地震は即ちこの地這り地震なりしなり礦泉は全國殆んど行く處としてこれあらざるなきも殊に本島中央部より東北部に至るの地及び九州島中央より西南にかけて多くまた太平洋沿岸よりは日本海沿岸に多し而して

四國島及び中國南面は割合に少なし是を以て火山脈の趨勢と比較考する時は其の關係の深きこと直に知り得べし(礦産もまた關係深し但しこれは物産の條にゆづりこゝにはいわず然れども概して金屬の火山地方に多きことは記すべし)

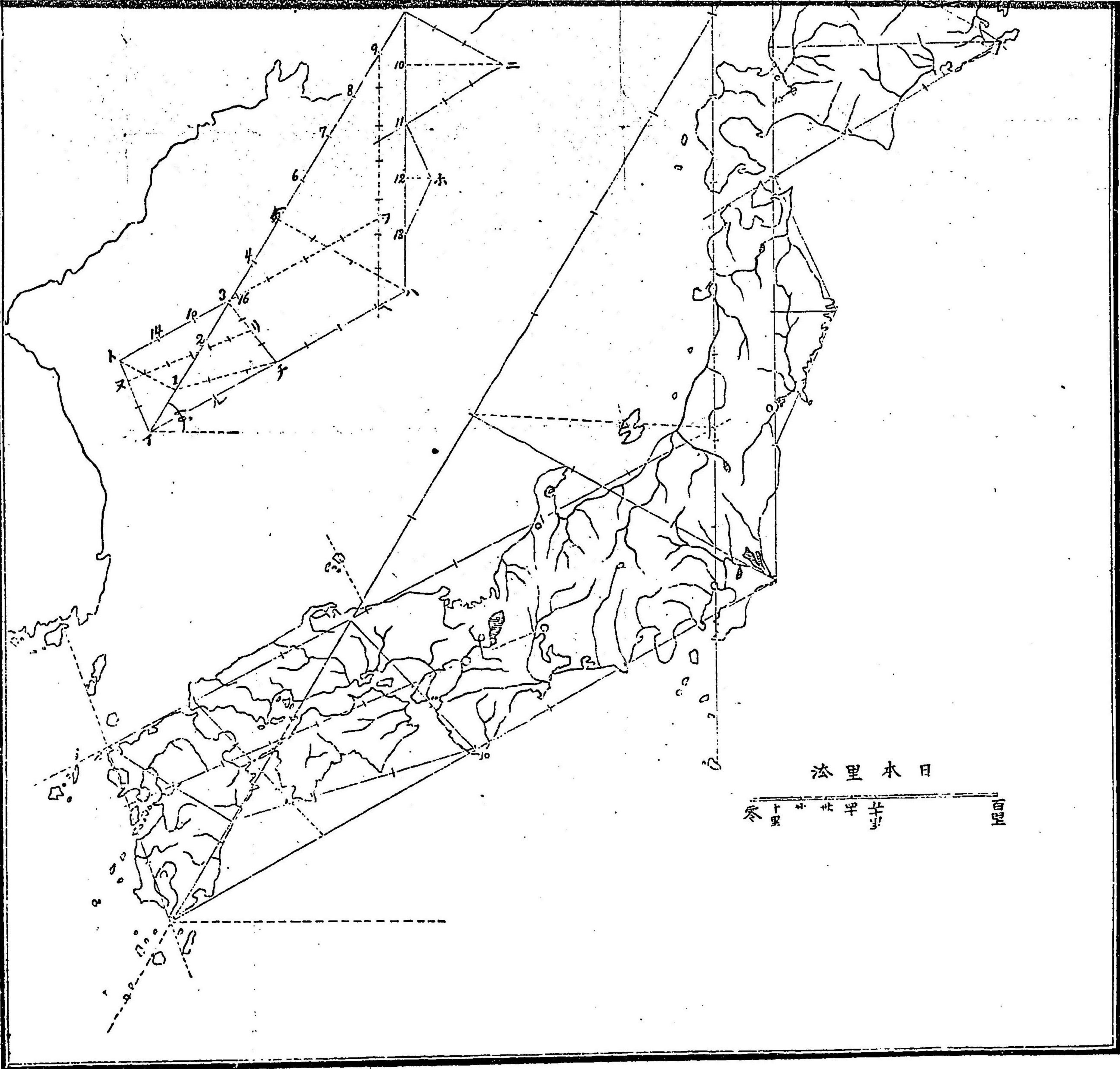
水理[○] 我帝國の形勢は狹長にして大川巨流を生ずること能はず然れども山脉の縦横連亘すること上述の如くなるを以て河流また乏しからず而して我國は蝦夷島の北部を除くの外は東に太平洋西に日本海を控ゆるを以て河流の注く所はこの海洋の外に出でざること勿論にして内國の諸山脉より發する諸水は皆わかれて或は東し或は西して遂に太平洋若くは日本海に注ぐなり

元來水は其の特性として物理の原則に基き低地を選んで流れ下るものにて一水他水と合し數多の小流相集りて大河となることなほ樹木



日水里

百里



日本里汰

百 里 半 里 十 零

の幾多の枝葉相集りて幹となるが如く、小流なくして直に大河あることなし、多くの小流相集りて大河となるには曠漠たる地勢なかるべからず、河流の大小と地勢の廣狹と相關することは事實によりて之を知ることを得べし、我國の境土中東西南北幅員相等しく地勢曠漠たるものは北海道にして河流の最大なるもの亦此に在り、石狩川これなり、源を石狩嶽の大瀑布に發し西南に流れ西北に轉じて海に入る、其長さ百六十七里實に本邦第一の大河なり、其流布の區域大なるに従て幾多の細流之に集り次第に河流の大をなす、信濃川北上川以下皆然らずと云ふことなし。

河流の効用甚だ多し、雖ども其最重要なるものを灌溉と運輸となす、灌溉とは田畑に養水を供給することにして農業に關し、運輸とは種々の貨物を一の地方より他の地方に運ぶことにして船舶によりて之を

爲すことを得、専ら商業に關す國にして、農業興らずば、商業行はれず、商業盛んならざれば、工業も亦起るに由なし、而して農業商業の河流に顧るもの此くの如し、國土に於ける河流配置の大切なること知るべきなり、故に河流は唯大なるが所以に大切ならず、水流緩漫にして水深く、蜿蜒として最大距離を流るゝを以て重しとなす、流緩にして水深ければ、運輸の便多く、水流長きに亘れば、灌溉の區域廣きを得ればなり、通常河流の長さものは亦灌溉運輸の用に適する以て、河流を比較するには、先づ其長さによる、今五十里以上の長流を擧ぐれば左の如し、

(名稱)	(所在地方)	(延長里數)
石狩川	北海道	一六七
信濃川	信濃越後	一〇〇
北上川	陸中陸前	七九

阿武隈川	岩代磐城	七七
利根川	上武、総常	七一
天塩川	北海道	七〇
木曾川	信、飛、美、尾、伊	六六
最上川	羽前、羽後	六二
天龍川	信濃、遠江	六〇
酎水川	飛驒、越中	五八
阿賀川	岩代、越後	五七
神通川	飛驒、越中	五二
江川	備後、石見	五〇

右の表によれば、河流の大なるものは主として北海道及び本州の北部に在り、特に北海道に在る河流は、其形勢全く本州の河流に異りて、其屈

曲甚だ多く、且つ融雪の爲に年々其屈曲及び河口の位置を變ず、これ巨大なる流水水路を妨碍するに由るとぞ、本州の西部及び四國九州に於ては長流なく、僅に日向薩广に川内川(四六里)、土佐阿波に吉野川(四一里)あるのみ、此地方の幅員甚だ狭きによるものにして、河流の延長と幅員の廣狭と相關するものと知るべきなり、

河流の方向位置等は主として山岳の形勢によりて同じからず、北海道に於ては其中央に南北東西に亘る山脉ありて分水するを以て河様は四方に流る、樺太山系以西日本海に面する地は石狩天塩兩川の灌域にして河水西流して日本海に入る、千嶋帶山脉以南は十勝釧路兩川の灌域にして皆南流して太平洋に入る、北オコック海に面する部分に在りては皆北流してオコック海に入る、

本州に在ては中央を縦貫する山脉によりて分水せられ東南方に在て

は河水皆太平洋に入り、西北方に在ては皆日本海に入る、北上川利根川天龍川木曾川等は前例の著名なるものにして、最上川信濃川等は後例の著名なるものなり、

四國に在ては山脉中央部を通じて東西に亘り、地勢は東南北の三面低下するを以て河流も亦此方向に従て流る、吉野川の東流して鳴門海峡に入る外は著名なるものなし、

九州の地勢山脉縱横に連亘すれども中央南北に亘るもの分水を爲し、河流の方向一は東方に注ぎ他は西方に流る、著名なるものに至ては西方に流る、川内川筑後川あるのみ、

平野我國山岳水流の形勢此くの如し、又曠漠たる平野あるべき理なし、國土自然的の現象は山河の位置によるもの多けれども、社會人文上の事情に至ては平野の配置に基くもの最も多しとす、農工商の事皆こ

れ、平野に於てせざるはなし、山岳丘陵のみにして平野絶へてなくんば、何の所にか人民彙集して都會をなすを得んや、

北海道に於ては樺太山系南北に延び千島山脈東西に走り其相接する邊より西方併に南方共に平野に富む、其西方に在るものは石狩野にして其南方に在るものは十勝野なり、石狩野は石狩川及び其支流の灌域にして南北三十七里餘幅平均五里に亘り、地味肥沃にして後來多望の地たり、北海道第一の都會札幌は此平野の南部に在り、十勝野は十勝川の灌域にして十勝國の中央より東南海岸に亘る平野なり、

本州の平野は中央を縦貫する山脈の海岸傾斜地に在るものなれば規模自ら大なるを得ず、奥の平野は北上川及び阿武隈川の灌域にして本州の北部東海岸に面する部分に在り、山形の平野は最上川の灌域に屬し、南北數十里に亘る、越後の平野は信濃川阿賀川の灌域にして、長さ四

十里、關東の平野は利根川の灌域にして、東西南北凡三四十里、太平洋に面する本州北部と西部との分るゝ尖端に在り、著名なる武藏野の原は其一部たり、尾張の平野は木曾川の灌域、

四國に於ては吉野川の灌域に阿波の平野あり、讃岐の平野は北方内海に濱する海岸傾斜地に在り、

九州に於ては筑前の平野玄界洋に面する傾斜地に在り、其他大野川筑後川の灌域に屬する平野あり、

此に注意すべきは平野の所在と河流の配置との關係おれなり、平野の在る所、河流の在る所にして、大平野の在る所多くは大河流の在る所たるなり、河流の大なるものは北海道及び本州の北部に在りて、本州の西部及び四國九州になく、平野の大なるもの亦北海道及び本州の北部に在りて、本州の西部及び四國九州になし、平野にして地味豊饒穀菜の耕作

に、適せずんば、平野の大なるは、荒蕪地の大なるを表すのみ、而して平野の地味は、河流の灌漑による、平野の價値は、其河流と相伴ふに存すと云ふべきなり、

次に注意すべきは、都會の位置と平野との關係なり、都會は多くは平野を灌漑する河流の沿岸に在り、關東の平野に於ける東京、越の平野に於ける新潟等、奥の平野に於ける仙臺、盛岡等、皆其例として見るべきなり、蓋し平野は耕作の行はるゝ所、農業に従事するもの相集て村落を爲すや、幾多の村落の必要によりて、便宜の地に都會を生じ、農民此に来て生産物を賣り、他の必需品を求む、都會は村落の中心にして、市場たるものなり、平野の大なるに従て、村落都會の組織錯綜を極むるに至るの理知るべきなり、

湖沼 地面形の大勢を説かんに、は山岳河流に次ぎて湖沼の事を一言

せざるべからず、我國に於ける大河流大平野の多くは、北海道と本州北部に在ることを述べたるが、湖沼も亦此原則に洩れず、湖沼の利用は、河流に相じく、航通灌漑漁業なり、今其周圍十里以上のものを擧ぐれば左の如し、

琵琶湖(近江)	七三里	楓蓮湖(根室)	一五里
霞浦(常陸)	三六里	小河原沼(陸奥)	一三里
猿間沼(北見)	一八里	宍道湖(出雲)	一三里
猪苗代湖(岩代)	一六里	印旛沼(下總)	一二里
中海湖(出雲)	一六里	十和田湖(陸奥)	一〇里
八郎潟(羽後)	二五里	洞爺湖(膽振)	一〇里

湖沼の最大なるものは琵琶湖にして、近江の中央に在り、周回凡七十三里、南北十六里、東西一里、乃至五里、湖水面の海水面を抜くこと凡三百三

十尺湖水の流出は勢多川あり、下流は宇治川となり淀川に合して大阪灣に入る、水深き處は三百尺に及ぶを以て、能く大船を浮ぶに足り、蒸氣船の往來頻繁なり、魚族の産するもの甚だ多く、周圍の村落等漁業を以て家を立つるも頗る多し、近時此水を引きて廣く工業上に利用せんとするの計畫成れり、京都の疎水、工事これなり、日向淺きを以て未だ其成蹟の著名なるものあらずと雖も、遠からずして利用の方法熟し、琵琶湖の水力は遂に關西工業發達の唯一動力たるに至るならん、霞浦は本邦第二の大湖にして常陸の國に在り、利根川の下流に續く、周圍三十六里、東西凡七里、南北凡七里、水深かゝらずと雖も、北浦利根川に接續せるを以て小蒸氣船の往來ありて交通の便を助く、魚族の産するもの少なからず、沼岸漁業者多し、常陸下總は本邦中湖沼の多き地にして此他に北浦、牛久沼、印旛沼及び手賀沼等あり、本邦の湖沼琵琶湖の周

七十三里にして霞浦は周回其半なり、其次の猿間沼は周回又其半なり、第一第二第三の湖沼の周回互に斯く半減するも亦一奇と云ふべし、猿間沼は北海道北見の海岸に在り、周回十八里、北海道には湖沼の數多く根室に楓蓮沼あり、釧路に釧路湖あり、其他阿寒湖(釧路網走湖)北見洞爺湖(膽振大沼渡嶋)等あり、其數凡四十六、猪苗代湖は岩代に在り、周回十六里にして、海水上千八百尺、水深くして魚多し、越後阿賀川の水源地たり、陸奥の小河原沼、十和田湖、羽後の八郎潟、陸前の品井沼等は北部に於て著名なるものなり、右十和田湖は海面上千三百尺にして湖中全く魚族を産せず、中禪寺湖は下野日光山中に在り、周回五里、海水上四千四百二十尺、往時は全く魚族を産せざりしが、近時放養せしが大に蕃殖に適すと云ふ、蘆湖は相模箱根山上に在り、周回四里三十町、海水上二千三百三十尺、

此他富士山麓に富士八湖と種するものあり、諏訪湖は信濃國和田峠に在り、周回四里、海水上二千六百四十尺、一月乃至二月の間は凍結すること尺餘にして歩渉することを得、天龍川の水源なり、本邦の湖沼中海水面上最高き地に在るものは此三者なり、

中國地方に於ては湖沼の大なるものは出雲國の中海湖周回十六里と、宍道湖周回十三里あり、九州に於ては薩摩の池田湖周回四里、筑前の鴨生田池周回三里あるのみ、

我國地面形上の形勢北に起りて西に及ぶを以て山岳河流湖沼の配置北に多く且つ大にして西に少く且つ小なるを見るなり

氣象。以上にて地面形に關する事を略説したれば之より地上に於ける現象に付き更に記述する所あるべし。氣象とは空氣界の現象にして風雨雪霜等の事項を含み、地上の温度を影響する原因の一たるなり。空氣界は八十里の高さに達するを以て地面を離るゝ距離の多少によりて空氣の壓力を同じくせず、又空氣の性質は彈力を有し温度によりて伸縮する等のことあるを以て空氣の動搖によりて種々の現象を生ずるなり。

空氣の壓力を氣壓と云ふ。氣壓を計るには晴雨計による、晴雨計とは水銀を充たしたる硝子管を水銀を盛りたる器上に倒置したるものにして、其管中の水銀の重量は器物に盛りたる水銀面を壓する空氣の壓力と關係するを以て水銀面上の氣壓高ければ管中の水銀は押し上げられ氣壓低くければ管中の水銀は下るなり。一般に云はゞ夏期は冬期

に比すれば氣壓低く、高き土地は低き土地よりも低し。我國の氣壓は平均七百六十二佛厘にして、最寒の時七百六十四佛厘、最暖の時七百五十八佛厘なり。一、二月頃は氣壓最も高く、六、七、八月頃は最も低し。又空氣の乾濕冷熱によりて氣壓同じからず、乾冷なる空氣に在りては壓力高く、溫濕なる空氣に在りては低し。而して空氣の乾濕冷熱は所により時によりて同じからず、此に於て氣壓の高き所の空氣は低き所に向て動き爲に風を生ず。地球上に於て最も溫暖なる所は赤道近傍にして最も寒冷なる所は南北兩極地方なり。故に兩極地方の空氣は赤道近傍に向て吹き來る道理にして、且つ地球は西より東に向て自轉するを以て、此二者の理由によりて地球上に終歲一定の風あり、之を貿易風と云ふ。又海陸の間にも一定の風を生ず、熱帶地方、溫帶地方にして日中は陸地の炎熱甚しきを以て風は海より吹き來り、夜間は陸地海よ

りも速に冷却するを以て風は陸より海に吹くなり。

我國は亞細亞大陸を西北に受け、東南は大平洋に向ふを以て海陸風の現象多し。夏は南風若くは東南風最も多く、冬は西北風の多きは全く此原由によるなり。概して夏の南風、東南風は靜穩なれども冬の西北風は劇烈なり。又南よりする黒潮暖流と北よりする千島樺太寒流とは我國の風に影響を及ぼす一原由たるなり。故に一年を通じて云ふときは西風又は西北風最も多し。四季にて云ふときは春は西風最も多く、夏は南風、秋は北風、冬は西風最も多し。毎年八九月の頃には暴風ありて農民航海者は此頃を風災の季節となすなり。陰曆の二十日及二百二十日は陽曆の八月末九月初の頃にして此兩日の氣象に關しては新聞紙は電報によりて一々各地の狀況を報ず、これ稻の花咲く頃にして農作に關するおと最も大なればなり。此等の暴風は南洋のフ

イリッピン諸嶋若くは支那海の邊より起り來るを常とす。而して多くは大雨之に伴ふ。

水は熱を受くれば水蒸氣となりて空氣中に飛散し、空氣放冷せば含有せる水蒸氣は凝結して雲霧となり雨露霜雪となりて地上に降る。故に熱氣甚しき地方に在りては水の蒸發甚しく、水蒸氣上昇放冷し雨となりて降るなり。熱帶地方に在ては大陽の其地上に來れる數月間に一年中の雨を降りし其他の季節には一滴の降雨あることなし。赤道直下に在ては毎日炎熱最も高き時に必降雨す。熱帶地方より兩極地方に至るに従て降雨の量は次第に減少するも降雨の度數は頻繁となるを通則とす。而して亞非利加サハラの大砂漠、亞拉比亞、北印度砂漠、ゴビ砂漠等に在ては全く雨なし、無雨帶と稱す。空中に高く聳ゆる山岳は溫度低くして水蒸氣の凝聚作用を助くるを以て降雨多し。

我國は四方海水を圍らし黒潮の暖流等ありて蒸發作用行はれ易く、又山岳の高きもの少なからず凝聚作用容易に行はるゝを以て降雨近接の地方に比して多しとす。我國の降雨は溫暖の季節に多く寒冷の時期に少く、且つ六月には霖雨あり九月には暴雨あるを常とす。霖雨は梅雨又は五月雨と稱し大約三十日に亘り、南方大平洋より來る風と北方日本海より來る風との衝突に由ると云ふ。地方に付きて云はゞ北陸道及び東海道以西の地は降雨多く、東北地方は寒冷にして空氣水蒸氣を含みおと少きが所以に降雨亦少し。北陸道地方に降雨多きは日本海より蒸發したる水分を含む所の空氣内地中央の山脈に遮ぎられて降るにより、東海道以西に雨量の多きは黒潮の暖流に由る。降雨は西方溫暖地方に少くして北方寒冷地方に多く、日本海沿岸の地方には特に多し。北陸道諸國及び羽前羽後地方に在ては平地にても積雪三

四尺に及び山間にては一丈乃至二丈に及ぶを常とす。故に此地方に在ては家屋の構造他の地方と同じからず、屋は板葺にして檐を長く出し其下を通行するの便に供すと云ふ。

氣候。一地方の寒暖の氣候は土地の位置、地面の高低、水陸の割合、山脈地勢の模様、土地の性質、風雨の多少、及び海流の方向等によりて影響せらる。土地の受くる太陽の熱は直射する所に多く傾射する所に少きを以て、其位置赤道下に近きものは温暖にして兩極に近きものは寒冷なり。高き山岳は夏期積雪を戴くものありて海水面を距るものと高きに從て温度は次第に下る。次に水は陸に比すれば熱を吸収すること遅くして一旦吸収したる熱は之を放散するものと亦遅し、故に洋海湖沼等の水多き地方に在りては陸地の寒暑を調和するの力あり。山脈は寒風の來るを防ぎ暖風の去るを遮ぎるの用をなし、土質の確かなるも

のは熱を吸収發射すること急速にして粘土質のものは遅々たり、風の常に寒冷なる大陸より來るものは寒冷にして温暖なる洋上より來るものは温暖なり、及び暖流の來るならば土地の寒冷を減却するの原因となるなり。

我國の地形南北に長く北緯五十度より三十度に至る間に在るを以て各地の季候同じからず。亞細亞大陸に接近するを以て其影響を受けて夏は炎熱にして冬は寒冷なれども、又一方に於て太平洋を控へ四周海水を以て圍み黒潮暖流對馬暖流等の影響あるを以て之を調和することを得て寒暑其極に至らず、日緯度の大陸に比すれば夏は涼しく冬は暖なり。然れども寒暑の差亦甚大なり、其の最も甚しきは新潟にして其測候所の調査によれば一月の平均温度は一、四度にして八月の温度は二六、〇度なれば其差は實に二五、四度なり。支那の北京にては

其差二九、二度上海にては二三、五度なれども、米國サンフランシスコに於ては僅に六、四度、ハンクーパーにては一、八度なり。

全國の平均温度は一、二、六度にして、最高温度は三六、二度(宮崎)最低温度は零點下三四、六度(北海道上川)なり。最低温度は日出前後に在りて最高温度は午後二時半より三時の間に在り。

各地の氣候を示す爲に測候所の所在地により最近の調査を擧げん

	年平均	最高	最低
長崎	一六、〇	三四、四	三、八
廣島	一四、六	三七、二	四、六
東京	一四、〇	三四、四	六、八
金澤	一三、〇	三五、三	七、二
函館	八、〇	三一、一	一九、四

此調査は明治二十五年分にして最低部は皆氷點以下の度数を示す。

植物^〇 我國は南琉球は熱帯に近く北千嶋は寒帯に達するを以て寒温熱三帯の植物能く繁殖す。我國植物分布の様を記述するに温度によりて五分帯となすものあり、或は土地の位置によりて三分帯となすものあり。何れにしても南方琉球諸嶋より九州地方に於ては熱帯植物の種類を産す、蘇鉄、ヘゴ、ナギ、臭樹、榕樹、甘蔗等これなり。本土の武蔵以南及五畿内以西山陽山陰四國等の地方には半熱帯の植物を産す、山茶、厚皮香松栢類繁茂し、茶樹、檀樹の栽培に適し、密柑、甘蔗能く成長す。本土の中央部以北青森に至る地方には温帯の植物あり、樺、杉、松、楓、檜、柏、樅、樺等繁殖す。北海道に於てはイタドリ、ハマナシ、赤楊、柳、榆、松柏類を産し、本土各部の植物を併有す。同一の地方に於ても山岳に在ては氣候冷なるを以て自ら其地方とは異様の植物成長するなり。森林は右半熱帯の地に多く、紀伊、大和、伊勢、伊豆等の地方に在るものを著名とす。

木曾の官林は稍高地帯に屬するものなり、其他關東奥羽にも森林少なからず。本土中央以南には檜樹茶樹の栽培盛にして、北方に在ては漆樹林檎の培養行はる。特に西洋林檎の培養は近來年を追ふて盛大に趣く。穀米は専ら南部西部の温暖地に適し、大小麥、粟、豆類、大麻、煙草等は北部より可なり。桑樹は本土中央部に盛に栽培す。海草類は各地沿岸の地に於て採集するもの其種類少なからず。

動物 動物の分布も亦植物の如く南方には熱帯性のものを産し、北方には寒帯性のものあり。琉球諸嶋には毒蛇多く、北方に進むに従て猪鹿兎狐の類多く、四國は猿を以て著名にして、東北地方北海道地方は熊狼等を以て有名なり。海産動物は太平洋に在ては鯉魚海鼠鯧鮪鮫等あり、日本海には鯛比目魚烏賊鰯等あり。淡水魚は鮎、鯉、鯢魚等あり。別に北海道に於ては鮭鱈鯨等あり、千嶋には海獸を産す。

各地方戸々飼養する家畜は牛馬第一にして豚及び家禽之れに次ぐ。牛を飼養する所は中國以西にして、馬を飼養する所は九州の西南部に最も多し。豚は専ら琉球地方に行はれ、家禽は關東の上總及び中國の出雲備前備中邊に廣く行はる。牛馬は耕作と運搬の用に供し、豚及び家禽は食用に供す。尤も近時肉食次第に行はれ、牛を以て重要な食用材料となすに至り、中國以西但馬播磨地方に産するものを最佳とす。鑛物 我國の鑛物は金、銀、銅、鉛、錫、安質母尼、滿俺、鉄、石炭等にして、鉄鑛には稍缺乏するも最も銅と石炭とに富む。石炭は北海道の西南部及び九州の各地に在り。銅は多少各地方より産出すれども、最重要なるは下野の足尾銅山と伊豫の別子銅山なり。羽前、羽後、越前、飛騨、越後、加賀、大和、出雲、石見、長門、備中等の各地に銅山あり。金、銀は薩摩、大隅、石見、但馬、攝津、岩城、羽後、陸中等の各地に産出す。總て金屬鑛山の數は二千三

百箇所に近く、坪數九百万坪餘に達す。

區劃 自然の區劃と人爲の區劃との二あり、自然の區劃とは土地の形勢により山岳河海により分畫するを云ひ、人爲の區劃とは交通の便宜等によりて政治を行ふ爲に定めたる區畫なり。北海道本土四國九州と云ふが如きは自然の區畫にして府縣國郡の如きは人爲の區畫なり。昔時は國と道とに分ち幾内七道六十六國を以て政治上の區畫とせしが維新后に至り幾内八道は十五國となれり。國と道とは最も自然の形勢に基きて定めたるものなれども、今日にては政治は専ら府縣郡市町村の區畫によりて之を行ひ道は北海道のみを存し、郵便制度は専ら國の區畫による。故に今日の政治の區畫は一道三府四十三縣以下市郡町村なり。然れども地方誌を説くには便宜の爲に道の區分に依るべし。

地方誌

緒言 全國を道國に分ち幾内七道六十六國とせしは遠く文武天皇御宇のことなり。爾來道は政治上重要なる區劃なりしが、現今に至りては獨り北海道のみ政治上の區劃たり。然れども道の區別は因習の久しきになれ最も普通なる區別となり、此區別によりて國々を列擧するおと甚だ便にして、且つ大方は自然の區劃と合するを以て此區別によりて説明すること便利なり。則ち幾内八道八十五國の名稱は左の如し。

(幾内) 山城、大和、河内、和泉、攝津の五國、

(東海道) 伊賀、伊勢、志摩、尾張、三河、遠江、駿河、甲斐、伊豆、相模、武藏、安房、上

総、下級、常陸の十五國

(東山道) 近江、美濃、飛彈、信濃、上野、下野、磐城、岩代、陸前、陸中、陸奥、羽前、羽後、の十三國

(北陸道) 若狹、越前、加賀、能登、越中、越後、佐渡の七國

(山陰道) 丹波、丹後、但馬、因幡、伯耆、出雲、石見、隱岐の八國

(山陽道) 長門、周防、安藝、備後、備前、美作、播磨の八國

(南海道) 紀伊、淡路、阿波、讃岐、伊豫、土佐の六國

(西海道) 豊前、豊後、筑前、筑後、肥前、肥後、日向、大隅、薩摩、壹岐、對島、沖繩の九國三嶋

九國三嶋

(北海道) 渡嶋、後志、石狩、天塩、北見、膽振、日高、十勝、釧路、根室、千嶋の十一國

明治維新前までは山城の京都は首府にして代々天皇の都し給ひし所

なるを以て山城以下五國は畿内として道とは別ち稱したれども、維新後都は東京に移されたれば畿内と稱するも其意味なきこととなりたり。政治の區畫は北海道を除くの外は府縣を以て最大行政區畫となすも國を標準として分たず、郡によりて之を分つ、故に一國にして數府縣に屬するものあり、一府縣にして數國を合するものあり。府縣は三府四十三縣にして其區別左の如し。

北海道廳 北海道全体を管す、其面積は……………六〇九五、三六

東京府 武藏九郡伊豆七島小笠原嶋……………五二、一七

京都府 山城丹後丹波五郡……………二九六、五五

大阪府 河内、和泉、攝津七郡……………一一五、七二

神奈川縣 相模、武藏三郡……………二二九、一七

兵庫縣 播磨、但馬、淡路、攝津五郡、丹波二郡……………五五六、六八

長崎縣	壹岐、對馬、肥前六郡	二三五、一五
新潟縣	越後、佐渡	八二四、五九
埼玉縣	武藏十七郡、下総一郡	二六五、八四
千葉縣	安房、上総八郡	三二六、四五
茨城縣	常陸、下総六郡	三八五、一六
群馬縣	上野	四〇七、二五
栃木縣	下野	四一一、七七
奈良縣	大和	二〇一、四二
三重縣	伊勢、伊賀、志摩、紀伊二郡	三六八、五五
愛知縣	尾張、三河	三一、二、七八
靜岡縣	遠江、駿河、伊豆	五〇三、八二
山梨縣	甲斐	二八九、八五

滋賀縣	近江	二五八、四四
岐阜縣	美濃、飛驒	六七一、四五
長野縣	信濃	八五三、七六
宮城縣	陸前十三郡、磐城三郡	五四〇、七九
福嶋縣	岩代、磐城十一郡	八四六、〇七
岩手縣	陸前一郡、陸中十七郡、陸奥一郡	八九九、一九
青森縣	陸奥八郡	六〇七、〇三
山形縣	羽前、羽後一郡	六〇〇、一五
秋田縣	羽後八郡、陸中一郡	七五四、〇〇
福井縣	若狹、越前	二七二、四〇
石川縣	加賀、能登	二七〇、七二
富山縣	越中	二六六、四一

鳥取縣	因幡、伯耆	二、二四、一六
島根縣	出雲、石見、隱岐	四、三五、八二
岡山縣	美作、備前、備中	四、二〇、九八
廣島縣	備後、安藝	五、二〇、七八
山口縣	周防、長門	三、八九、九九
和歌山縣	紀伊八郡	三、一〇、六二
徳嶋縣	阿波	二、七一、二八
香川縣	讃岐	一、一三、五〇
愛媛縣	伊豫	三、四一、一七
高知縣	土佐	四、五四、七二
福岡縣	筑前、筑後、豊前六郡	三、一七、八一
大分縣	豊後、豊前二郡	四、〇二、七三

佐賀縣	肥前十郡	一、六〇、〇八
熊本縣	肥後	四、六五、四七
宮崎縣	日向九郡	四、八七、三四
鹿嶋縣	大隅、薩摩、日向一郡	六、〇二、三一
沖繩縣	琉球諸嶋	一、五六、九一

右の表中北海道を除けば面積の最も大なるものは岩手縣にして長野縣之に次ぎ最も少なるものは東京府にして香川縣之に次ぐ。大体の上より云はゞ、東北諸縣は其面積大にして、西南諸縣は少なり、蓋し東北地方は西南地方に比して住民の數少きによるならん。又郡の數は八百〇四にして、市は四十三、町は千二百九十六なり。右諸府縣中人口の最も多きは新潟縣にして百七十四万八千五百十二人、之に次ぐものは兵庫縣にして百五十五万四千六百九十七人、最も少きは沖繩北海道を

除けは鳥取縣にして四十万六千五百〇三人なり。

第一 北海道

位置等 北海道は帝國の最北の部分にして北海道本部と千島諸嶋とよりなる。西は日本海に瀕し東は太平洋に面し南は陸奥に對し北は魯領薩哈連嶋に臨む。古への蝦夷の地にして初め松前藩の領に歸し後徳川氏の直轄となりしか維新後明治二年開拓使を置き蝦夷を改めて北海道と稱し十一國を區別するに至れり。明治十五年開拓使を廢して三縣を置きしが十九年に至り更に之を廢して北海道廳を置く。此に特に注意すべきは樺太嶋の事なり。樺太嶋は北海道の北西亞細亞大陸に接近する所に在りて古來蝦夷の一部分として帝國の版圖に歸し維新後は北海道本部と共に其開拓を計り明治三年には樺太開拓

使を置きしが明治八年五月帝國と魯國との間に所謂樺太千嶋交換條約成り九月を以て其讓與式を舉げ我樺太嶋は遂に旭日の國旗を撤去するに至る嗚呼魯領薩哈連嶋は明治八年九月前の我樺太嶋なり。地勢 北海道の地形は甚だ奇なり人或は之を鱈魚に喩ふ津輕海峡を隔て、青森と相對する渡嶋は其尾にして東北の一端根室は其頭に當るべし。石狩より膽振の海岸に對する平原は軀幹と尾との分界をなし東西の兩部に分つ。此平原より西部は殆んど半嶋地にして山岳多く其一端は南に折れて噴火灣を爲す。東部は不規則なる方形にして千嶋より起れる山脈と樺太より來れるが如き山脈と日高山脈とは中央に接續して恰も背骨の形勢をなす。此背骨分水界をなし海岸に至るに従て偏平にして甚だ曠原平野に富む。千嶋諸嶋は根室の海岸より東北に連り殆んど魯領東塞加に及ぶ。嶋嶼の數大小三十二。其極

北の嶋を占守嶋といふ。

海岸、北海道の海岸は東北端と西南端とは稍屈曲あれども、其他は概ね直平なり。根室灣根室港は東北屈曲の著名なるものにして、噴火灣函館灣小樽港等は西南に於て著名なり。

山岳、北海道に重なる山脈二あり、一は中央より起りて一方は北に行き宗谷に達し一方は南に赴き日高の襟裳崎に及ぶものにして、他の一は東端白床岬に起り北見の東南の境に沿ふて西に走り前者と相交り更に天鹽と石狩の境を爲し石狩のオプタラシケ岳に至るものなり。

前者を分て東北山脈日高山脈の二とす、天鹽北見の境をなすものは東北山脈にして十勝石狩日高の境をなすものは日高山脈なり。東北山脈の高さは平均二千尺に過ぎざるも、日高山脈の高峰は六千五百尺に達するものあり。宗谷岳、カチホリ岳、天鹽岳等は東北山脈に屬し、芽室

山神威岳、臘虎山等は日高山脈に屬す。白床岬より起りオプタラシケ岳に至る山脈は千島山脈と稱し、斜里岳、雄阿寒岳、雌阿寒岳、十勝岳、オプタラシケ山等之に屬す。北海道西部に在る連山一は後志、膽振の間に在り、他は渡島に在り。マクカリヌプリ山、岩内山、白老山等は前者に屬し、大川岳、駒ヶ岳、遊樂部岳等は後者に屬す。

- オプタラシケ山 七二〇〇尺
- 十勝岳 七〇〇〇尺
- マクカリヌプリ山 六七〇〇尺
- 芽室山 五七〇〇尺
- 斜里嶽 五四〇〇尺
- 神威岳 五四〇〇尺
- 遊樂部岳 五一〇〇尺

雌阿寒岳

四七九〇尺

岩内山

三六〇〇尺

北海道には火山頗る多く活火山八坐消火山三十八坐あり前記中斜里阿寒石狩十勝マクカリヌプリ駒ヶ岳等は火山にして皆西部連山及び千島山脈に屬するものなり。

原野 原野の大なるものは石狩野にして南北三十七里幅五里十勝野之に次ぎ其他釧路野根室野北見野天塩野等あり。下文更に細説する所あらん。

河流 石狩川は最も大にして長百六十七里急流を以て名あり支流はウリウ川ソラチ川夕張川等なり。天塩川之に次ぎ長七十里十勝川又之に次ぎ長五十餘里なり。其他クヌリ川三十七里常呂川三十里等なり。西部には河流の大なるものなし。

土地 北海道の面積本地五千八百六十方里島地千〇五十九方里合計六千九百十七方里なり。民有田畑宅地牧場等は四万五千七百十七町にすぎざれば尙開拓の成る曉に至れば百万町以上の耕地を得べしと云ふ。而して官民共に使用に供せる土地を全面積に比較すれば僅に全面積の一厘二毛六才に過ぎず。

人口、戸數 北海道に現住する戸數は總計九万二千四百二十二にして現住人員は四十四万四千六百四十三人なり。北海道にはアイノと稱する舊土人あり其戸數三千九百八十にして其人員一万七千二百〇一人なり。北海道は土地の廣きに比して住民甚だ少く未開の土地甚だ多きも他の府縣に於ては住民甚だ多くして土地不足なれば此等の地方より年々北海道に來り住するもの甚だ多し。廿四年の統計によれば來住者の戸數四千五百四十二にして其人員一万五千七百三十八人

なり。故に北海道の人口戸数は年々増加するなり。然れども土地未開にして寒氣強きが故に勤勉にして且つ忍耐力強きものにあらざれば能く成業すること能はざるなり。多くの來住者の中には赤貧にして來住し勤勉と忍耐とによりて數年に巨万の富を爲すものも多しと云ふ。

農耕 耕地は最近の調査によれば五万二千〇四十二町歩餘にして内、開田地二千三百六十二町歩餘にして畑地四万九千六百七十九町歩餘なり。農耕に従事する者の戸數は二万六千三百三十四軒にして、全体の戸數に比較せば戸數千軒の内に二百八十軒の農家ある割合なり。右の内自家に土地を所有して耕作するもの一万九千九百六十七軒にして他人の土地を借りて耕作するもの六千六百六十八軒なり。米を播種する反別は二千百五十三町歩にして、其收穫高一万九千六百

五十九石、麥を播種する反別は四千〇二十九町歩にして其收穫高三万七千三百二十七石なり。其他大小豆、玉蜀黍、粟、蕎麥、菜種、藍、馬鈴薯、大麻、亞麻、甜菜等の播種反別甚だ少なからず。特に麻は年ならずして著名なる特産物となるに至るべしと云ふ。

鑛業 鑛山は甚だ多く特に硫黃石炭に多し。硫黃を産するもの十二箇所にして其採掘高二十二万二千七百九十九石、石炭を産するもの廿七箇所にして其採掘高五十万噸以上に上る。其他石油銅を産す。現に採掘せるもの右の如くなれども、尙採掘せざる産地も甚だ多からん。石炭の採掘を以て著名なるものは北海道炭鑛鐵道會社なり。

漁業 北海道は著名なる水産地方なり。捕魚採藻を以て業とするもの二万五千七百七十九軒あり。本年漁期に至れば本州東北地方より北海道に入込みて漁業雇人となるもの頗る多く數万人以上に上る。

鮭、鱈、昆布等の漁獲は其著名なるものなり。水産物収獲高は百三十九万五千九百二十六石にして之を本州各地及び支那朝鮮地方へ輸出するなり。之を價に見積れば七百八十九万七千五百五十七圓の多きに當ると云ふ。

製造業 製造業は年々其盛大を加ふる所にして、最近の計算によれば資本金五千圓以上の工業會社の數は四十七個なり。特に北海道製麻會社、札幌製糖會社、北海道鑛山會社の如きは資本金五十萬圓以上にして著名なるものなり。十萬圓以上の者は八個にして前三者を除けば北海道セメント會社、日本油臘會社、札幌麥酒會社、安田硫黃山等は著名なるものなり。諸工業會社にて用ふる蒸氣機の數は四十二個にして其馬力は千六百〇四馬力なり。之れは二十四年の統計にして二十一年頃よりは殆んど二倍せり、以て其盛大に赴くこと知るべし。

商業 北海道の商業は其開拓事業の進歩するに従て年々繁昌に赴くは勿論にして數年を出でずして大に吾人の注意を要するに至るならん。今最近の統計によりて其現況を示さん。一ヶ年間に他へ輸出する貨物の代價と他より輸入する貨物の代價とが合計十萬圓以上に達する港灣の數は三十箇所にして其著名なるは函館、小樽、江差、根室等なり。最多きは函館港にして輸出入の合計九百四十四万七千六百五十四圓なり。輸出する者は主として海産物にして鱈、鮭、鱈、鱈、鮑、煎海鼠、貝類、昆布等なり、其他礦物穀類等をも輸出す。最多きは鱈粕にして其數量七十三万四千七百九十八石其原價四百四十五万七千六百六十三圓なり、内地の各部に送りて肥料に供するなり。之に次ぐものは鹽、鮭にして其數量十一万四千五百八十八石其原價百二十四万六千四百〇六圓、内地の各部に送りて食料に供す。北海道に輸入する物品の重要な

るものは穀類、酒類、煙草、反物、雜貨等なり。最も多きは米にして其數量八十三万四千四百三十四石、其原價五百九十八万〇九百二十八圓なり。輸入反物類の原價百九十九万九千五百〇九圓。輸入酒類の原價五十三万九千三百四十七圓、砂糖の原價二十八万八千四百五十三圓なり。輸入の貨物中此等の物品主位を占むるは、北海道は米を産するものと少く、且つ氣候寒冷甚しきによるを以てなり。

北海道の商業の外國に對する關係を見るに、外國貿易港は函館小樽にして此二港に於ける最近の輸出入の合計は八十八万八千二百六十圓、内輸出は八十七万六千五百五十九圓なり。其輸出先の重要なるものは北米合衆國と清國にして、濠太刺利之に次ぐ。輸入する國は露西亞英吉利最も多し。

商業及運輸を業とする會社の數二十七にして、資本金十萬圓以上のも

の六。商業會社資本金の總額は八百六十五萬七千六百五十五圓なり。銀行は本店支店合して十二あり。

炭礦鐵道會社の鐵道は九十四哩に延長す。

教育 北海道に於ける學齡兒童の總數は七萬二千七百五十人にして内就學のもの三萬六千七百七十六人なり。故に此兒童が成人する頃に至れば住民の半數は文字を解するも他の半數は全く文盲の人たるべし。小學校の數三百九十六あり。中學校は未だ設置せず、尋常師範學校、函館商業學校、札幌農學校あり、特に農學校は著名にして各地の尋常中學校に教員となり居る農學士は多くは此學校の卒業生なり。

國別 北海道は渡嶋以下十一國より成ることは緒言に於て既に之を述べたり。今其諸國に付概況を述べん。

石狩國は北海道の西側日本海に面する部分に在り、北は天蓋國に背

し東北は北見國に接し南は膽振國に續き西南は後志國に連る。國中
 山脈起伏するも中央の原野頗る曠大なり。石狩川は透迤として其中
 夾を貫き豊平、千歳、空知、雨龍の四流を合し海に注ぐ。地味豊饒にして
 最も煤礦に富む。近時鉄道成り道路通じ、上川離宮の地域を定められ
 てより以來全道殖民地中の主位を占めんとするの勢あり。市街の最
 も大なるものは札幌にして石狩平原の西南部海岸を矩ること三里の
 南に在り。北海道中函館に次ぐの市街にして現住戸數五千七百四十
 六にして現住人員二万五千六百三十四人なり。北海道廳所在の地に
 して札幌農學校、諸銀行、諸會社等も亦此に在り、恰も全通の政治商業の
 中心たるを以て甚だ繁昌なり。
 後志國は石狩國の西南日本海に面する部分に在り。甚だ海産に富
 む。其一部分北に突出して半島の狀を爲し、其南を後志灣とし其北を

石狩灣となす。石狩灣中に小樽港あり。小樽港は函館に次ぐ港にし
 て現住戸數五千百三十三軒にして現住人員二万六千五百九十七人。
 北海道に輸入する貨物は函館より更に汽船に搭載して小樽港に至り
 此に陸上げを爲し之れより汽車によりて札幌に送るなり。旅客の往
 復亦必らず此順序による。且つ特別輸出港なるを以て大小の船舶常
 に港内に輻輳し、實に北海道の要衝たるなり。
 渡嶋國は本道極南の一端に在り、津輕海峽を隔て、陸奥國と相對す。
 北海道中海岸屈曲の最も多き部分にして其地位本土に近接せるを以
 て開拓夙に行はれ全道中人口最も稠密なり。其南端渡嶋灣の中央に
 函館港あり、横濱、神戸、長崎、新潟と共に五港の一にして外國貿易の市場
 たり。北海道内地に關する輸出入は、皆此港を経るを以て實に北海道
 咽喉の地たるなり。現住戸數一万二千七百三十四軒、現住人員五万七

千九百四十三人にして、北海道第一の都會なり。學校會社等頗る多く、豪商富貴軒を列ね、尤も繁昌を極はむ。港灣水深くして船舶の碇繋に適し、年々出入する所の船舶の數十万に近し。其他福山は西南の海岸に在り、現住戸數二千三百〇一軒、江差は西海岸に在り、現住戸數三千二百八十九軒、共に日本海に臨む。森は噴火灣に在りて、膽振の室蘭港と相對す。

膽振國は日高の南に在り、噴火灣を隔て、渡嶋國と相對す。火山岩の山岳多く土地肥沃と云ふべからず。室蘭港は其西南の端に在り、港口西に開き丘陵海水を擁し、船舶の繫泊に便なるのみならず、近時海軍軍港の一に加へられ、又炭鑛鐵道會社鐵道の一端此に達するを以て、海陸運輸の衝に當り、年々繁盛を加ふ。年ならずして小樽と共に北海道最要港の一となるまどあらん。

日高國は北海道の南部十勝の西南に在り、太平洋に臨み、遙に陸奥と相對す。沿海良港に乏しと雖、とも魚藻に富み、近年農事も亦起れり。十勝國は日高國の東北に在り、太平洋に臨む。十勝河は數多の支流と共に其中央を縱横に流れ、其灌域は地味甚だ肥沃なり。海岸河口に近づく前分れて二流となる、一は十勝河にして他の一は大津川なり。

釧路國は十勝の東北に在りて、同じく太平洋に臨む。釧路川は國の中央を貫流して海に入り、國內湖沼多し。海岸は概して沙濱なれども、稍屈曲あり、厚岸、濱中、釧路の港灣は共に繫舟の便あり。土地高燥にして地味不良なり。鑛物には硫黃石炭最も多く、沿海又水藻に富む。標茶の鐵道あり、又釧路は特別輸出港の一たるを以て、將來に於ては北海道東部の要衝の地となるに至らん。

根室國は北海道の東端に在り、根室海峽を隔て、千嶋の國後國と相

對す。根室港は其東南端花咲半島の北側中央に位し、東北部の海岸物は専ら此に輻湊するを以て繁昌なり。現住戸數二千八百〇六軒、現住人員一万千七百〇七人にして本道要港の一なり。此他花咲港は花咲半島の南側に在り、冬時根室港の氷結するや船舶の出入此港によると云ふ。

北見國は本道の東北に在り、東北はオコック海に臨み、北は宗谷海峡を隔て、吾人の記憶すべき魯領薩哈連嶋と相對す。海岸灣曲なきにあらざれども海水淺くして大船を容るゝこと能はず。徧東の地に屬すれども氣候温和にして地味肥沃なり。交通の便開けざるを以て人煙稀薄なれども水陸の利豊饒なるを以て將來有望の地なり。

天塩國は北見の西南石狩の北に在り、日本海に濱す。天塩川其北部を貫流すれども大平原なし。沿岸は漁業の利を以て著名なり。

千島國は本道の東極に横はる大小三十二の島嶼より成る。東北は久里留海峡を隔て、露國の東察加と相對し、東南は太平洋に枕み西北はオコック海を控へ西南は千島海峡を隔て、根室國と向背す。其極北に在るものを占守島となし、極南に在るものを國後島となす。國島擇捉、色丹三島の外は住民なし。然れども千島の地たるや帝國の東極端に位し、最も魯國と近接するを以て國防の警備上最も重要な部分に屬するを以て、近來愛國士人の注意を惹くに至り、有名なる郡司海軍大尉の如き、率先開拓殖民の計畫を立つるものあるは國家の爲に慶ぶべき所なり。

警備 北海道の警備は陸軍に在ては、第二師團の管する所にして、屯田兵を置く、其總員三千五百六十四人にして、歩兵三千三百四十人、騎兵八十八人、砲兵六十八人、人工兵六十八人なり。屯田兵とは農耕と兵事とに

從事する兵にして北海道に一定の土地を得て永住する兵なり。或る點に於ては封建時代の兵制と相似たるものありと云ふべし。海軍に在ては第五海軍區の管轄に屬し其鎮守府は膽振國室蘭港に置かるゝことに定まり居れども未だ開廳に至らざるを以て横須賀鎮守府の管轄する所なり。

第二 東山道

位置等 東山道は本州の北端陸奥に起り中央部畿内に至る本州北部の背骨に當る一帶の地方にして北部に在ては東西は共に海岸に達すれども中央部に至るに及んでは北には北陸道あり南には東海道あり其間に挟まれて西畿内に接す。長二百八十里餘にして幅五十三里に及ぶ所あり。我國の開進王化西より漸次東に及べり東山道地方の沿

革他の西南諸道に及ばざるものあるは勿論なり。太古に在ては北東の廣大なる土地は道の奥の總稱を以て含まれしが成務天皇の御代に至り始めて東北地方に新區劃を定められ齊明天皇の御代に至り兩羽を畿定せられ文武天皇の御代に出羽を置かれ元正天皇の御代に石城石脊を置かれ其より明治維新に至りて陸奥を五國に分ち出羽を二國に分ち遂に現今の東山道を爲せり。

地勢 東山道の地形は恰もくの字形に似たり而して樺太山系は其中央一帶の地方を貫きて南西に奔り甲斐信濃四近の地方に至て九州地方に起れる支那山系と相結合す。よの結合の部分は我國にて幅員の最も大なる所にして且つ最高の地方たり。美濃は尾張と共に平地に屬し上野下野も亦關東平野の域内に在り。此部分に在る近江美濃以下上野下野に至る六國を稱して中山道と云ふ。他の七國は之を稱し

て奥羽七州と云ふ。陸奥山脉中央に連亘し東西の分水界たり。
 海岸線 東山道は我帝國中海岸屈曲の最少き部分なり。東海岸は多
 くは沙濱にして灣曲少し。最も著名なるものを仙臺灣とす、三景の一
 なる松嶋の勝景はこの灣内にあり、石の巻萩の濱は其灣中の港なり。
 仙臺灣の東端金華山を廻れば女川、志津川、釜石、山田、宮古等の港灣あり。
 其北端陸奥海を抱く邊に野邊地灣、青森灣あり、大濱、野邊地、青森は其灣
 中に在る港なり。西海岸は一帶日本海に洗はれ屈曲最も乏し。北端
 の龍飛岬を廻りて十三瀨あり、男鹿嶋を控へて八郎瀨あり、之より以南
 平直にして最上河口に酒田港あるのみ。西海岸は冬日は北風其威暴
 を恣にし波濤高くして沿岸航海の便少し。要するに我國の海岸線は
 大平海岸に屈曲最多きを以て東山道の海岸線も又西海岸よりは北東
 海岸に屈曲多し。此差異は又他の諸點の差異なるを注意すべし。

山岳 陸奥海の南岸より起りて本道の中央を南下し東西兩海の分水
 界をなし北上川、阿武隈川の西岸に沿ふて會津高原に達する連山を陸
 奥山脉と云ふ。此山脉中の著名なる山岳は陸奥の八甲田山(火山)にし
 て高六五五三尺、羽後の駒ヶ岳(火山)にして五四〇三尺、岩手山(火山)六七
 九七尺、森吉山(火山)四八〇九尺、七時雨山(火山)四〇七八尺、陸前の駒ヶ岳
 (火山)五一七四尺、三峯山(四三五六尺)、磐城の新田岳(五六〇五尺)、羽前岩代
 の西吾妻山(火山)六三八〇尺、岩代の大盤梯山(活火山)五八六四尺、博士山
 (火)四八七五尺、七ッ森山(五五一七尺)等なり。羽後の北部に起り陸奥
 山脉に平行して南下し會津高原、帝釋山に至りて陸奥山脉と連接する
 ものを出羽山脉と稱す。羽後の烏海山(六八八五尺)、月山(六五六八尺)、羽
 黒山(三一五一尺)、朝日岳(六三三九尺)、飯豊山、岩代の御神樂岳(三九六〇尺)
 淺草山(五三四六尺)、駒ヶ岳(六八一尺)、燧岳(七六八二尺)等は此山脉中の

著名なるものなり。其他帝釋山脈は岩代磐城下野三國の境より岩代上野の境赤安山に至り田代山(六〇二四尺)帝釋山(六八四〇尺)黒岩山(七〇六八尺)赤安山(七〇七五尺)等著名なり。三國山脈は上野信濃の境に在りて帝釋山脈に接し入岩嶽(六六二六尺)苗場山(六九六三尺)吾妻山(七七八八尺)等あり。北上山脈は陸奥馬淵川の南に起り北上川の東に沿ふて南下し仙臺灣に終る種市山(二三七〇尺)早池峯(六三〇三尺)等著名なり。

平野 北上川阿武隈川兩河谷の平地にして陸中の中央部より陸前磐城岩代に亘る所大平野あり陸中の一本木野種山原上野原陸前の登米の平原磐城の衛山原岩代の對面原等は此平野中の著名なるものにして地味概ね肥沃なり。最上川の上流沿岸に南北數十里に連る平野あり三形野鹽原ミタケ野等著名なり。此他岩代の會津平羽後の御物川

の沿岸地陸奥の岩木川沿岸地等にも平野多し。

河流 我國の河流は北に在るもの長大にして西南に在るもの短小なることは既に述べたり。本道の如きは本土中其地勢河流の稍大なるものあり得べきものなり。延長四十里以上の河流を擧ぐれば十八にして其内本道に屬するもの北上川(七九里)阿武隈川(七七里)最上川(六二里)あり其他木曾川は本道の西部信濃美濃に亘り僅に河口に近きて尾張を過ぎ天龍川の上流は信濃に屬し阿賀川の上流は岩代に在り信濃川の上流亦信濃に在り以て大河亘川の多くは本道に在るか發源するかにあることを知るべきなり。

北上川は源を陸奥陸中の境に發し中央の陸奥山脈と其東に平行せる北上山脈との間を南走し仙臺灣に入る。此川の河口は太平洋に注ぐ越波川なりしが今を去る二百年前仙臺侯の計畫によりて掘鑿し今の

河口仙臺灣に通ずる運河を開きしなり。其灌漑豊富にして實に我國北部の沃野たるなり。岩手縣の盛岡は其沿岸市街の最大なるものにして、其水路は盛岡に始り運輸最も多し。

阿武隈川は岩代磐城下野の境に發源し陸奥阿武隈兩山脉の間を北流し東に折れて海に入る。福島は其沿岸にある市街の最大なるものなり。北上川と共に奥の平野を灌漑し、此地方地味肥沃なり。

木曾川は信濃鳥居峠邊に發源し木曾山の溪谷を西南下して美濃との境に至り飛騨川、長良川、揖斐川等と相合し尾張を控へ桑名市に近き所より伊勢海に入る。飛騨川は飛騨にては益田川と稱し美濃に入り木曾川に合し、長良川は美濃の北隅に發し岐阜を過ぎて木曾川に入り、揖斐川は西北隅に發し大垣の東を経て木曾川に入る、共に濃尾の低原を灌漑し又運輸の便を助くること大なり。

氣候。本道の氣候は其位置によりて甚だ差あり、先づ北部舊奥羽地方は南部中山道地方に比すれば寒氣強く秋田青森の邊に於ては降雪甚だ多し。又南部地方に於ても低地は一般に温暖なれども飛騨信濃等の山地に於ては寒威甚しく積雪數尺に至る。本道に在る測候所の報告によれば

	(最高温度)	(最低温度)	(平均温度)
岐阜(美濃)	三十六度	七度三分	十四度二分
長野(信濃)	三十三度八分	十五度二分	十度七分
宇都宮(下野)	三十二度九分	十一度二分	十二度一分
福島(岩代)	三十四度	十一度	十一度七分
石巻(陸前)	三十四度二分	八度七分	十一度三分
山形(羽前)	三十五度二分	十四度九分	十度六分
秋田(羽後)	三十二度九分	十四度五分	十度三分

青森(陸奥)

三十二度七分

十五度一分

九度一分

土地人員。本道の全面積は六千八百四十九方里にして全人員は八百六十三万八千七百〇三人なり。此内舊奥羽に屬するもの面積四千二百四十七方里人口四百四十四万五千五百十六人なり、故に一方里の人口千四十六人なり。舊奥羽を除きたる國々の面積は二千六百〇二方里人口四百十九万七千八百八十七人なり、故に一方里の人口千六百十三人なり。右の事實によりて之を見れば本道北部と西部とに於ける人口疎密の差あること知るべきなり。

都會。本道の都會中一萬五千人以上の住民あるものを擧ぐれば

地名	戸數	人員	地名	戸數	人員
仙臺(陸前)	一二、五二二	六四、四七六	前橋(上野)	五、三五〇	三二、五三一
盛岡(陸中)	七、二二八	三一、八八六	大津(近江)	五、五一四	三一、八五二

地名	戸數	人員	地名	戸數	人員
宇都宮(下野)	六、一〇二	三二、二六八	岐阜(美濃)	六、一五一	三〇、九九四
弘前(陸奥)	六、四一五	三〇、五〇〇	米澤(羽前)	五、一六三	二九、五二八
大垣(美濃)	四、三九六	一九、八七五	鶴岡(羽前)	三、〇九三	一九、八四〇
彦根(近江)	三、五九五	一九、七四〇	福嶋(岩代)	三、〇二二	一八、一〇六
桐生(上野)	二、七八一	一七、九二七	栃木(下野)	三、六一〇	一七、九一七
秋田(羽後)	六、八四八	二八、九七七	山形(羽前)	四、七一五	二八、九五七
長野(信濃)	五、四六三	二七、三七六	高崎(上野)	四、六九六	二六、九一三
若松(岩代)	四、四六五	二四、六〇〇	青森(陸奥)	三、四八六	二二、一四二
酒田(羽後)	三、七七二	二二、二〇七	石巻(陸前)	二、九四四	一七、二四四
高山(飛騨)	三、六一二	一五、五六五	足利(下野)	三、〇七一	一五、〇〇五

右戸數にて人員を除せば一戸に住せる人口の員數を知ることを得るなり。六人以上の平均を有する者は青森、山形、桐生、福嶋、鶴岡、前橋なり。

概して工業地方に在りては職工等の入り込み居るもの多きを以て平均住民の一户に住するもの多きなり。全國にて一户住民の最も多きは下野の足尾にして銅山鑛夫の多きを以てなり。

物産。本道諸國の物産中最も著名なるものを擧ぐれば近江蚊帳、長濱縮緬、信樂及土山の茶、近江美濃紙、美濃水松細工、飛騨蠶卵紙、生絲、上田織、更科蕎麥、信濃桐生織物、上野真岡木綿、鹿沼麻、日光塗、下野海魚類、磐城會津蠟燭、二本松油岩代埋木細工、仙臺平陸前南部縮緬、陸中津輕塗、陸奥米澤織、最上紅花、羽前秋田蓆、秋田畝織、春慶塗、羽後等なり。其他米穀は陸前美濃に著名にして牧畜鑛物は奥羽に著名なり。

區劃。本道は磐城岩代以下の十三國より成ることは既に述べたり。右十三國は滋賀、岐阜、長野、群馬、栃木、福島、宮城、岩手、青森、山形、秋田の十一縣に分屬す。今此等の縣別に從て其狀況の一斑を述べん。

青森縣は本道の最北端に在り一葦を隔て、北海道の渡嶋國と相對し南西は岩手縣、秋田縣と相接す。其面積は六百〇七方里、戸數八万五千餘戸にして陸奥國九郡中の八郡を管轄す。東部は原野廣漠にして牧畜に適し西部は土地肥沃にして農耕に宜し。

本縣管轄内の民有地は合計二十五万七千八百四十八町にして内、田地五万七千二百九十町、其地價千三百七十一万三千百一十一圓、畑地五万二千五百六十六町、其地價二百八十三万八千四百七十七圓、宅地六千五百八十八町、山林七万四千四百八十二町、原野牧場六万六千五百十町。さて田地一反の地價は二十三圓九十四錢に當る、然るに全國の平均は三十九圓七十四錢なるを以て之に比せば其地味の佳良ならざることを知るなり。農耕は主として米穀にして桑耕稍行はる。米作、反別五万五千二百町、其收穫高八十万千七百五十九石にして、一反の收穫高は一

石四斗五升、麥、反別四千四百四十七町其收穫高三万三千百三十九石にして一反の收穫高七斗五升なり。桑、畑反別百〇七町繭産額千二百〇二石なり。農家の數は凡六万户にして二万二千五百戸は自ら土地を所有して耕作に従事するものなり。田畑十町歩以上を所有するもの七百二十九戸、十町歩以下二町以上所有のもの一万二千百十四戸あり。農産物の重要なるものは米、馬、牛、繭、生絲、大豆、粟、稗、蕎麥等なり。水産業に従事するものは二万二千四百七十七戸にして、漁業者三千九百六十八戸採藻業者百七十六戸。重要なる水産物は鯔、海扇貝、鱒、鮎、島賊、海鼠、昆布なり。

工業盛大ならずと雖も工業家二千戸以上に達し、筵、繩、漆器等を産出す。工業會社十七、資本五万千八百十二圓なり。

商賈の數は凡七千戸にして、魚鳥の市場一、穀物市場二十二箇なり。銀

行國立二、私立三にして其資本額は總計三十七万圓なり。鑛産物は金銀銅にして其産額金七百六十九匁銀八千六百〇八匁銅七千四百三十二匁なり。

市邑の著名なるものは弘前、青森、八戸、黒石、野邊地等あり。弘前は奥州地方第二の大都會にして津輕氏十萬石の舊城地なり。青森は陸奥灣の西南岸に在り函館港と相對す其間五十九哩、青森縣廳此に在り且つ奥州鐵道の北端にして年々繁昌を加ふ。

教育の有様は學齡人員十一万〇三百七十五人にして内修學者の數は三万九千〇七十四人なれば殆んど其三分の一に當る割合なり。

警備は陸軍は第二師團の所管にして第四旅團青森に在り。海軍は第五海軍區の所管に屬し横須賀鎮守府之を管す。

岩手縣は青森縣の南、太平洋に面する部分に在り、西は秋田縣に續り南

は宮城縣に接し陸前一郡陸中十七郡陸奥一郡を管す。其面積八百九十九方里戸數十万九千三百〇六戸なり。北上川沿岸の地は農耕に適するも他は肥瘠相半す。

民有地は六十六万四千九百九十一町にして、内田地五万〇五百五十二町其地價千二百二十五万五千三百二十四圓、畑地八万七千九百四十八町其地價五百四十二万二千三百四十圓、藪田八町、山林四十一万八千九百八十四町、原野及牧場九万七千九百九十二町なり。故に民有地の三分の二は正に山林なり。田地一反の地價二十四圓二十四錢なり。

米作反別は四万九千三百二十六町にして其收穫高は五十五万七千八百八十二石なれば、一反に付一石一斗三升の割なり。麥作反別三万三千六百〇七町、收穫二十三万六千四百九十九石。桑畑二千二百六十七町、繭産額二万九千九百石、絲二万四千四百五十四貫。牛馬の數合して十一万

六千二百二十九頭。農家の數は凡九万三千三百戸にして自ら土地を有して耕作に従事するもの凡三万八千二百九十戸あり。十町歩以上の地主七百八十四戸、十町歩以下二町以上一萬六千戸なり。重要なる農産物は米、麥、大豆、粟、稗、蕎麥、生絲、馬、牛、麻、烟草なり。重要なる農産

水産業に従事するものは專業者の數漁業三千九十六戸採藻業千五百七十七戸。漁獲物の總額概算は水揚價格四十八万五千七百二十二圓なり。重要水産物は鮪、乾鰯、鯉、鮎、乾鮑、鰻、鱈、海苔、昆布なり。工業に従事するものは凡五千五百二十一戸にして、工業會社は十三あり其資本三万三千二百圓餘あり。鐵瓶、紬、竹細工、漆器等著名あり。

商賈は凡七千九百七十四戸にして商業會社五其資本二万八千圓餘。銀行は國立二にして資本金二万五千圓なり。鑛産物は金、銀、銅、鐵、鉛等にして其製出高金八千七百八十四匁銀一万五

千三百八十八匁銅五万三百貫、鐵百四十六万二千〇二十貫なり。特に鉄の産出は帝國第一なり。鐵は此他島根、廣島、岡山、宮城等に産すれども稍産額の多きは岩手と島根あるのみ。

市邑の著名なるものは盛岡、釜石、山田、宮古、遠野、岩谷堂、水澤、花巻一の關等なり。盛岡は第一の都會にして往時は南部氏二十万石の城地なり。教育の有様は學齡人員十一万五千六百六十一人にして内修學者五万二千八百八十三人なり。

警備は陸軍は第二師團第四旅管に屬す。海軍は第一海軍區に屬し横須賀鎮守府の管する所なり。

秋田縣は青森縣の南、岩手縣の西、日本海に面する所に在り。羽後八郡陸中一郡を管す。其面積七百五十四方里、戸數十二万〇六百戸なり。農業の有様は民有地反別二十九万二千二百八十町、内田地九万八千四

百二十三町、畑地三万五千四百九十四町、藪田二十七町、山林七万四千四百七十八町、原野牧場等七万五千餘町あり。田一反の地價二十三圓十六錢なり。米作反別は九万七千八百六十四町、此收穫百二十四万三千五百五十四石、一反の收穫高一石二斗七升。麥作反別は二万九百六十四町。桑畑二千七百二十七町、繭産額九千八百四十三石、蠶絲一万八千貫。牛馬の數八万六千頭。農家の數は八万四千三百六十一戸にして自作農一萬八千四百餘戸。十町歩以上の地主二千五百八十三戸あり。重要農産物は米、大豆、麥、菜種、麻、藍、煙草、繭、生絲、真綿なり。

水産業に従事するものは專業の者のみを擧ぐれば漁業者二千七百二十六戸、採礦業者は僅に十七戸なり。漁獲物の水揚價格は二十一万八千九百八十九圓なり。重要水産物は鱒、鱒、鰻、烏賊等なり。

重要なる礦産物は金、銀、銅、鉛、石炭、石灰、石油、硫黃等あり。特に銀の産出

The seyan

(一) 地方誌

五百十人なり。秋田縣尋常中學校には農業專修科あり。警備は陸軍は第二師團第四旅管、海軍は第四海軍區の所管に屬す。山形縣は秋田縣の西南、日本海に面する部分に在り、東は宮城縣と相接す。羽前全國と羽後一郡を管す。面積六百万方里、戸數十一万六千四百三十六戸なり。

農業の有様は民有地二十九万一千六百六十九町中田地八万四千六百六十六町畑地四万二千〇九十町山林十四万八千八百六十五町原野牧場一萬四千六百八十四町等にして田地一反地價は三十圓なれば以上の三縣に比すれば概して上等田なること知るべし。米作反別八万二千二百〇九町にして一反の収獲高は一石六斗なり。麥作反別も四千町餘にして桑畑反別一万五千五百町其生産高は繭六万七千石絲六万四千貫。牛馬は三万二千頭なり。農家の數は凡七万五千八百九十一戸、内自作

(二) 日本地理

は本邦第一にして其製出高八百八十五万三千五百七十九匁なり。金の産出高は一万六千八百八十八匁にして全國にて第二に位す。銅鉛石炭の産出少ならず本邦中最も鑛物に富むものと云ふべし。

工業に従事するものは七千六百〇七戸にして工業會社の數二十あり其資本二百一十一萬四千八百十八圓なり。重要なる製作品は春慶塗、秋田織等なり。

商買の數は一萬二千〇九十五戸にして商業會社十四あり其資本二十一萬三千七百四十圓なり。銀行は國立一あり資本金十萬圓なり。

著名なる市邑は秋田、能代、大館、本庄、塩越、湯澤、土崎等なり。特に秋田は本縣第一の都會にして御物川の濱に在り往時佐竹氏二十万五千石の舊城地にして現今秋田縣廳のある所なり。

教育の有様は學齡兒童の數十二萬四千〇二十六人中修學者四万八千

農三万戸、十町以上の地主九百七十一戸。本邦第一の地主と稱せらるる本間氏は本縣酒田町の人なり。重要農産物は米、麥、大豆、小豆、菜種、繭、生絲なり。

水産業に従事する者は漁業專業のもの千三百戸あるのみ。産物は鱈、田作、烏賊、鰯、鮪、鱈、鯛、鮫、鮭、鮎等なり。

鑛産物は金、銅、安質母尼、石炭、石油等にして石炭の産額最も多し。

工業者は凡一万六六百戸、會社の數五十七、資本金四十五万四千六百圓なり。産物は織物、酒、製絲、銅鉄器、陶器等。

商買は凡一万二千四百戸、會社の數七、資本金二十万圓餘。銀行は國立のもの三、私立のもの一あり、資本七十二万圓餘。市區の著名なるものは米澤、山形、鶴岡、酒田等あり、本縣應は山形に在り、米澤は上杉氏(十五万石)鶴岡は酒井氏(十四万石)の舊城地、酒田は日本海の要港なり。本縣修

學者の數は十三万七千二百餘人にして内修學者は六万六千餘なり。本縣中學には農業專修科を置く。

警備は陸軍は第三旅管、海軍は第四海軍區に屬す。

宮城縣は山形縣の東隣にあり太平洋に面し、東北は岩手縣南西は福嶋縣なり。陸前十三郡と磐城三郡を管し、全面積五百四十方里、戸數十七千四百戸。仙臺灣を要して太平洋に濱す。

農業の有様は民有地反別二九六、一五二町、内田地八〇三五九町、畑地三八〇四一町、藪田二〇〇町、山林一五五二七七町等あり、田一反平均地價二二圓餘なり。米作反別七七六一町一反の收穫一石六斗四升。麥作反別二九二二四町、桑畑五千二百町、藪三万石、絲三万八千貫。牛馬七万二千頭。農家の數凡七六八四五戸、十町歩以上の地主八二一戸。重要農産物は米、大麥、大豆、小豆、藍、生絲、真綿、麻なり。

水産業者は專業漁業のもの五一六九戸採藻業一六八戸。水揚價格五十万圓。水産物は鮭、鮪、鮑、海鼠、章魚、鰺、鰻、鯛等なり。鑛産物は金、銀、銅、鉄、石炭、硫黄、褐炭等あり、特に褐炭の産額多し。工業者は凡六五〇〇戸、會社の數二五資本金四九三〇〇〇圓。製作物は絹織物、木綿織物、紙、筆、提燈、石細工、埋木細工、行李等なり。仙臺平織は袴地として貴重せらる。商賈の數は凡一万四千戸、會社の數八、資本十五万二千圓。銀行は國立一、私立一、資本金十五万圓。市邑の著名なるもの仙臺、石巻、秋濱、鹽釜等あり。仙臺は伊達氏(三十二万石)の舊城地にして三陸街道の衝に當り。東北第一の都會なり、縣廳此に在り、第二師團、第二高等學校亦此に在り。石巻は北上川の河口に在り。三勝の一なる松嶋は塩釜沿海に在り。教育の有様は學齡人員一四一二九七人、内修學者七九四八六八人。第二

高等學校あり

警備は陸軍は第二師管第三旅管に屬し、師團司令部は仙臺に在り。海軍は第一海軍區の所管に屬す。

福嶋縣は宮城縣の西南に在り、岩代、磐城に亘る。面積八四六方里、戸數一五三七六七戸なり。

農耕の有様は民有地反別四一一九五七町内、田地八九九一六町、畑地七〇五九一町、鹽田一四七町、山林二一七〇一七町等あり、田地一反地價三十圓なり。米作反別九〇二三三町一反の收穫一石四斗七升、麥作二七一〇町、桑畑二七二六六町、其産出繭一四四八四〇石、蠶絲一〇八八四〇貫。牛馬の數九一二三四頭。農家の數凡一二四〇三三戸、十町歩以上の地主四四九人。農産物は米、麥、大豆、菜種、煙草、繭、生絲、真綿、蠶種、馬。水産業の有様は專業漁業者五六六一戸、鹽、煙節、鱈は著名なり。

鑛物は金、銀、銅、鉛、石炭、硫黄等あれども産出額の最多きは銀と石炭なり。工業者は凡五八三三戸、會社は三四、資本金五二二〇九一圓。工産物は陶器、會津漆器、絹織物、金屬器、銀、煙草、酒等なり。商買は數は凡一四二五二戸、會社は十五あり、資本金は十三万圓餘。福嶋は仙臺に次ぐ都會にして此地方商業の地心となり且つ近時養蠶盛に行はるゝを以て商業次第に隆盛に赴くと云ふ。其他若松、二本松、白川、三春、平等も著名なる都會なり。特に白川は維新の際著名なる戦争のありし所なり。

教育の有様は學齡人員一七〇二二四人、中修學者九一五一人。陸軍は第三旅管にして海軍は第一海軍區に屬す。

栃木縣は福嶋縣の西南に在り、東は茨城縣に接し全く海岸を有せず。下野を管す。面積は四一一方里、戸數一一四〇二五戸なり。

農業の有様は民有地反別三二三五四八町中田地五二七三九町畑地五七九一六町山林一七七二〇一町等あり。米作五七六二二町一反の収獲一石三斗麥作五三一〇一町桑畑三三二二町。農家の數凡八〇三八二戸、十町歩以上の地主六四四戸。農産物は、米、麥、大豆、大麻、煙草、菜種、綿、藍、干瓢、繭、茶、生絲、麻絲等なり。

鑛物は銀、銅、鉛等にして銅の産出は本邦中第一に位す、其産額は一六三九四四五貫、足尾銅山は本縣下に在り世界に著名なる銅山なり。

工業者は六八〇〇戸、會社の數二十九、資本金九二六八一〇圓。製作物は織物、陶器、漆器、紙、煙草等にして特に足利佐野の絹布は共に著名なり。商買は凡一三六四〇戸、會社は十五、資本一七二一五〇圓。宇都宮、足利、佐野、栃木、鹿沼、日光等は著名なる都會なり。足利には王朝時代に設置せられたり足利學校の遺跡ありて孔子の廟及珍奇なる漢書等今尙存す。

日光には徳川氏廟墓あり屋宇の經營華美を究む。
 學齡人員は一三八四三五五人内修學者六五四九〇人。
 陸軍警備は第一師管第二旅管の所管に屬す。
 群馬縣は栃木縣の西に在り上野全國を管す。又海岸を有せず。面積
 四〇七方里戸數一三〇九一九戸なり。土地關東の低地に連り頗る農
 業に通す。

農耕の有様は民有地反別二三七〇一〇町中、田地五二七三九町畑地七
 二六八一町山林一〇二九九二町等あり。田地一反の地價五十三圓前
 記諸縣に比すれば殆んど其二倍に當るなり。米の收穫は一反に付一
 石三斗三升なり。桑畑二九三六二町繭一九三七一七石絲三三二五五
 五貫なり。牛馬三万六千頭。農家の數凡一万千八百戸、十町歩以上の
 地主四二二三戸あり。農産物は米、麥、繭、生絲、馬鈴薯、麻、煙草、大豆等。

礦物は石炭、硫黃、銅等を産す。

工業家は四一九五戸にして會社十四、資本七〇三三〇〇圓。製作物は
 桐生の織物、紡績絲等あり。

商買は凡一〇九九九戸、會社三十、資本四〇七七九八圓。市邑は前橋、高
 崎は製絲行はれ商業盛なり。沼田、安中、富岡、藤岡、桐生、伊勢崎等あり。
 學齡人員は一三四一九五人内修學者七九二七三人。

陸軍警備は第二師管第一旅管の所管に屬す。

長野縣は群馬縣の西南に在り本邦中幅員最も大なる部分の中央に位
 し海に接せず。信濃全國を管し、面積八五三方里、戸數二二五〇〇二戸。
 全國山岳多く平均海拔千六百尺なりと云ふ。

民有地反別五九五五八六町中田地七〇〇二町畑地九〇七四一町山
 林二四三三六六町等あり。田地一反地價三十七圓餘なり。米作六八

○七一町一反の収獲一石七斗。麥作反別少なからず、桑畑二二一三七町兩二八一八五〇石、絲二八四三七五貫あり。牛馬六万八千三百。工商に従事するもの凡三三五五九戸、工業の會社一七二、其資本二二九四一四四圓、商業會社一九資本四七一六八圓。工産物は織物、漆器、紙類、篤細工等なり、特に上田編は著名なり。市邑は長野、松本、上田、飯田最も繁盛なり。長野には有名なる善光寺あり、縣廳の所在地なり。學齡人員は一九四〇四〇人、内修學者一一八三四七人なり。陸軍の警備は第一師管第一旅管に屬す。岐阜縣は長野縣の西に在り、又海岸を有せず。飛騨、美濃に亘り面積六七一方里戸數一八五〇六三戸。飛騨は高原なるも美濃の南部は平野にして農業に適するなり。本縣の農工商に關する事情は二十四年十月震災以後の分は未だ調査

の結果を得ざるを以て詳細に記述すること能はず。災前の事實によりて其一斑を記せば民有地は七〇七六〇七町内田地六二八四三町畑四八四三三町、山林五七六九七二町。農家一四三三三三戸、十町以上の地主一六六〇戸、工業者一〇二四一戸、商業者一九二五四戸。重要産物は農産には米、麥、菜種、綿、繭、生絲、茶、藍、水産には鮎、鰻、鯉、鮒、工産には織物、陶器、製紙、傘、金屬器あり。高山、岐阜、大垣は著名なる市邑なり。陸軍の警備は第三師管第六旅管の所管に屬す。滋賀縣は本道の西端に在り、畿内、京都府と相接す。面積二五八方里、戸數一三四一二六戸。近江全國を管し、中央に琵琶湖あり、土地甚だ豊沃なり。民有地反別は一九三三六五町内田地六四二〇五町畑一一五〇六町山林一〇〇九二六町等あり。田一反地價五十四圓餘、収獲米は一反に付

一石七斗八升なり。地味の肥沃なること知るべし。桑畑五九四八町
繭産額九一四一〇石、絲六六六一貫。農家は凡一万五百戸、十町以上
の地主一三〇戸。農産物は米、麥、菜種、煙草、製茶、繭、蠶種、生絲なり。
水産業者は琵琶湖の漁業に従事するものにして漁業専業者六三一戸
兼業者三千餘戸あり、鮒、鯉、鮭、鱒、鮒等を産す。
工商業者は凡四千八百戸、工業會社三〇、資本八十二万圓餘、商業會社一
一、資本十四万圓餘。本縣の人は勤勉節約にして商賈の資性を備へ近
江商人の名あり。工産物は長濱縮緬、蚊帳、麻布、帆布等なり。大津、彦根、
八幡、長濱は共に繁昌なり。
學齡人の數は一、二六六八四人、内修學者七、一九四三人なり。
陸軍の警備は第四師管第七旅管の所管に屬す。

第三 東海道

位置等 東海道は本州の中央部太平洋に面する部分に在りて、北は東
山道によりて抱かれ西は畿内及び南海道の紀伊に接す。長百二十里
餘幅三十里に及ぶ所あり、東山道に比すれば共に其半に當る。
神武天皇天下一統の大業を建て給ひし當時に在ては本道に關しては
僅に遠江、牟婁、志、總の國等の名稱にて多少知られしのみにて多くは未
だ王化に浴せざりしが景行天皇の御代に至りて日本武尊の東征あり
王化漸く本道に及び成務天皇に至て本道の區畫を定め一々國造を置
き民をして仁政の下に立たしめ給ひき。關東八州の區畫は齊明天皇
の時に成り、東海道の名稱は天武天皇の御代に定められ、大寶の改革に
よりて畿内七道の區畫を完然しぬ。

地勢 本道の地勢は北部東山道と接する部分は一帯に山岳連続重疊するも南部は太平洋に面する傾斜を爲し沿岸平野なり。其北境に在るものは木曾赤石等の諸山脈にして富士山一帯の山岳は本道の中央部を中斷す。本道の西端には鈴鹿及び紀伊の山脈ありて畿内及び南海道と接す。相摸の箱根山以東は所謂關東八州の地にして一大平野を爲す。箱根山以西を關西と稱す。關西に在ては尾張亦一の平野を爲す。本道沿岸の地は一帯の平地にして所謂五十三驛は東京より西京に達す通路の要所にある都會にして、其道路は我國最大の國道たりしなり。今は東西の交通東海道鐵道によるを以て此國道によるの交通は大に減せり。

海岸線 本道の海岸線は本邦中にて其屈曲の多きを以て著名なりとす。鹿嶋洋に濱する常陸一帯の海岸は港灣と稱すべきものなしと雖

ども利根河口、犬吠岬より本道の西端に達する南岸は頗る屈曲に富み著名なる岬角灣港甚だ多しとす。最も重要なる大灣三あり、東京灣、駿河灣、伊勢灣これなり。東京灣は東に總房半嶋あり西に三浦半嶋あり相控へて成す所にして、安房、上總、下總、武藏、相摸の五國によりて包圍せらる。南北殆んど十三里、其南部は深くして三十五尋に達すれども北部は淺し、これ江戸川、隅田川、多摩川等より泥沙を流出するによるなり。其沿岸には帝都東京、横濱、横須賀軍港、千葉、木更津等の港あり、灣口には上總の富津と相摸の觀音崎とに堅固なる砲臺ありて海上の警備を嚴にす。上總下總の東南岸犬吠岬より大東岬に至る迄は九十九里濱にして鱒の漁場を以て著名なり。三浦半嶋より伊豆半嶋に至る相摸の灣入は相摸灘なり。駿河灣は伊豆半嶋と遠江の岬角御前崎と相扼してなす所にして、伊豆、駿河、遠江の三國其沿岸たり。清水江の浦は共に

其沿岸の良港なり。御前崎より三河の伊良湖崎に至る一帯の沿岸は屈曲更になし、所謂遠州灘沿岸にして海上七十五里の間船舶の碇泊に適する良港なく、波浪常に暴きを以て著名なり。伊勢海は三河、尾張、伊勢、志摩の四國によりて包圍せらるゝ内海にして三河の渥美半嶋と志摩半嶋とは共に其灣口を扼す。桑名、四日市、熱田は有名なる港なり。尾張の知多半嶋と渥美半嶋との間に別に東方及び北方に灣入するものあり、之を三河灣とす。伊勢灣は南北凡十七里にして東京駿河の二灣に比して最も大なり。山岳、本道の中央部に在る富士山は帝國最高の山にして高さ一万二千四百六十七尺、甲斐、駿河の境上に在りて其山脈は伊豆半嶋に及ぶ。富士山は死火山にして圓錐形を爲し頂上には周國一里餘の舊噴火口あり。高く雲際に聳ゆるを以て盛夏と雖とも谿間に積雪を絶たず、平

地の秋色深き頃は既に滿山白雪を以て包まれ恰も白扇を倒に懸けたるが如く、頗る美觀なり。其南麓に六里に亘る平野あり、富士裾野これなり。本道の北端常陸の國に在ては仙臺の南に起れる阿武隈山脈の終る所にして八溝山(三千三百餘尺)、加波山(二千五百餘尺)、筑波山(二千八百九十餘尺)等あり。下總、武藏、常陸の南部は所謂關東平野なれども房總半嶋に及んでは稍山脈多し、愛宕山(千三百七十尺)、最高く其他富山、鐮山等あり。武藏、甲斐、相摸の間に在る山彙を總稱して關東山脈と云ひ、三國嶽、佐野嶺(三五三二)、天目山(三五〇〇)、笹子峠(三四六九)、七石岳(五八五七)、雲取山(六六〇〇)、國司岳(八四八七)、武甲山(四三二三)等著名なり。次に富士山に屬する山脈は火山にして、箱根山(四五〇〇)、愛鷹山(三六九六)、八ヶ岳(九六六九)、立科山(八五四七)、高妻山(七九八六)、妙高山(七九二〇)等著名なり。其他丹澤山(五一八一)、大山(四一二八)亦著名なり。本道は東部と

西部とは共に山岳少く平野を爲せども甲斐、相模、駿河に於ては山岳最多し、遠江、尾張等に於ては東山道と接する境界に於て高山多し。駿河の赤石山(一〇二〇〇)、遠江の青崩嶺(三六八〇)、秋葉山(三〇七〇)、黒法師山(七〇七〇)、甲斐の地藏岳(八八〇〇)、白根山(一〇二〇〇)、七面山(七二二〇)、身延山(三三二〇)、金ヶ岳(五四七〇)、伊勢の鈴鹿山(三二一〇〇)、白倉山(四〇四〇)等あり。

平野 本道中平野の最大なるものは關東の平野にして常陸の南部下總、武藏等の數國に亘り東西南北共に凡三四十里あり。利根川、江戸川、隅田川等の灌域にして武藏野原と稱せらるゝものにして、常陸の女化原、鹿田原下總の小金原、習志野等之に屬す。地味一帯に肥沃にして五穀榮蔬に適す。次に本道の西部は尾濃平野の一部に屬す。其他本道の平野中著名なるものは伊豆の長者原、遠笠野、富士の裾野、甲斐の甲府

平原、遠江の味方原、牧野原、盤田原等著名なり。

河流 本道には著名なる河流多し、那珂川、利根川、隅田川、玉川、富士川、大井川、天龍川等これなり。太平洋に面する東岸に流るゝものは久慈川、那珂川、利根川にして、久慈川は常陸の東北部磐城に接する山岳より發し、那珂川は下野に發し、常陸に入り、水戸市の東を流れ、那珂港に至り海に入る長さ四十二里あり。利根川は上野の國、文珠山に發し、上總に入り、東南に流るゝこと七十一里、關東平野を灌漑して、銚子に於て太平洋に注ぐ。江戸川は利根川の支流にして、關宿に近づきて分れ、武藏、上總の境を流れて、東京灣に注ぐ。利根川の下流には湖沼頗る多し、下總の手ヶ沼、印旛沼、長沼、常陸の大浦、霞浦、西浦等これなり。隅田川は甲斐、武藏の境に發し、大宮、熊谷等の近接地を過ぎ、東京の東部より東京灣に入る、其延長は利根川の二分の一なり。玉川は甲斐に發し、武藏の西部を

流れて海に入る。延長凡十八里。富士川は甲斐の北境山脈中に發し天守駒岳兩山脈の間を流れ駿河を過ぎ駿河灣に入る。急流を以て著名なり。大井川は甲斐の白根山に發し駿河、遠江の境界に沿ふて流れ駿河灣の西岸に來り海に入る。延長四十六里。天龍川は信濃の諏訪湖に發し遠江の中央を貫流して海に入る。延長六十里。木曾川は其河口は尾張と境を接する所にありて伊勢灣に入れども寧ろ本道の河流として數ふべきにあらず。其他相摸の馬入川、酒匂川、駿河の安倍川、三河の矢作川、伊勢の宮川等著名なり。

氣候 本道は太平洋に濱し且つ海岸の屈曲頗る多く、海水の影響頗る著しきを以て其氣候概ね温和なり。小笠原群嶋の如きは遙に南に在るを以て炎熱を加ふと雖ども尙小嶋にして海中に在るを以て其位置の割合には酷しからずと云ふ。本道に在る測候所の報告によれば。

	(最高温度)	(最低温度)	(平均温度)
津(伊勢)	三十四度	五度	十四度
名古屋(尾張)	三十五度七分	六度四分	十四度
濱松(遠江)	三十六度九分	四度四分	十四度九分
沼津(駿河)	三十三度二分	六度	十五度
東京(武藏)	三十四度四分	六度八分	十四度
銚子(下總)	三十二度六分	四度八分	十五度三分

右は明治二十五年の統計による。

土地、人員 本道の全面積は二千六百五十八方里にして人口は九百三十三万五千九百五十三人なり。故に之を東山道に比せば人口は殆んど同數にして土地は殆んど三分の一なれば住民は其稠密の度に於て東山道の三倍なりと云ふべし。土地一方里の住民は三千五百十一人にして各道中にて多きこと幾内に次ぐ、東山道は既に述べたるが如く千

六百十三人なり。別に本道に属する小笠原群嶋は面積四方里五〇にして人口千百三十四人なり。

都會 本道の都會中一万五千人以上の住民あるものを擧ぐれば

都會	戸數	人員	都會	戸數	人員
東京(武藏)	二七九、一六〇	二、一六一、八〇〇	水戸(常陸)	四、七三九	二七、〇九〇
名古屋(尾張)	四四、四五三	一七九、一七四	千葉(下総)	三、六〇八	二四、三六八
横濱(武藏)	二九、〇七〇	一三二、六二七	八王子(武藏)	四、四九二	二二、六一〇
静岡(駿河)	七、七七六	三八、三三一	川越(武藏)	三、二二五	一九、七九一
甲府(甲斐)	六、八九九	三三、〇五五	四日市(伊勢)	三、五五二	一八、八六〇
山田(伊勢)	五、八四七	二八、三五六	熱田(尾張)	四、二二三	一八、六九九
津(伊勢)	五、六七九	二七、八三七	桑名(伊勢)	三、五九七	一八、六三九
横須賀(相模)	三、四八八	一八、三七一	神奈川(武藏)	三、三六六	一六、二六八

品川(武藏) 三、六七五 一七、五三四 本銚子(下總) 二、七三二 一五、一六一

右の都會中にて一戸の住民尤も多きは千葉にして一戸に六人七九の割合なり、其他は多くは四人乃至五人なり。二万五千人以上の住民あるものは八個の多きに至るなり。

區劃 本道は伊賀、伊勢以下常陸に至る十五國より成ることは既に述べたり。右十五國は東京、神奈川、埼玉、千葉、茨城、静岡、愛知、三重、山梨の一府八縣に分属す。今此等の府縣別に從て其狀況の一斑を述べん。

茨城縣は本道の最東端に在り。常陸全國と下總六郡を管轄す。面積三八五方里餘、戸數一七五、二九二戸。常陸の北西、磐城、下野等と境界を接する方の部分には山岳あれども、其南部及下總六郡は共に平野にして所謂關東平野の一部なり。地味は肥瘠相半ばするも利根川灌漑域に属する部分は沃土多し。

民有地は總計三八六、八三六町、内地八五、九五〇町、畑地一〇一、一四八町、山林一六一、三三三町等あり。田地一反の地價は平均三五圓八六錢にして本道中にて最も低

し。米作反別は八八、四九三町にして、一反の収獲平均一石三斗一升。麥作反別八四、八一〇町、一反の収獲八升四合なり。桑畑七、八〇七町、繭産額二九、〇二三石、絲一六、二四七貫なり。牛馬の數六四、五五〇頭。農家の數は大凡一四六、〇四七戸、内十町歩以上の土地所有者一、二〇八戸なり。重要農産物は米、麥、大小豆、粟、胡麻、煙草、甘藷、桔、藍、茶、繭絲等にして特に煙草は著名なり。水産業に従事する者は漁業者(專業)五、二九九戸、利根川筋及湖沼等あるを以て淡水漁業に従事する者も少なからず。重要水産物は鯉、鯛、鰻、鮑、鱈、赤魚、蜆、鮎、鮎、鯉、鮒、鯰等なり。工業に従事する者は大凡六、三三七戸にして工業會社の數は二十五あり其資本金は二六九、六〇〇圓なり。重要製造品は酒、醬油、製紙、織物、寒水石、鑄物、塗物、陶器等にして、野田の醬油、佐原の酒、結城の紬、銚子の縮布等著名なり。商賣の數は大凡一二、〇六八戸、商會社の數二十二其資本二〇九、八一〇圓なり。著

名なる都會を擧ぐれば水戸市は常陸那珂川の南畔に在り西南に千波湖を控ゆ、昔時は徳川三家の一たる水戸家三十五万石の城地たりしなり、茨城縣廳、中學校、師範學校等此に在り、市内の商況繁昌す。土浦は霞浦の西岸に在り汽船によりて銚子其他の地方に交通の便あり繁昌水戸に次ぐ。太田、那珂、湊、石岡、結城等の市街あり。警備は陸軍は第一師管第二族管に屬し海軍は第一海軍區に屬し横須賀鎮守府の管轄に屬す。

千葉縣は茨城縣の南に在り本道の東端に於て南太平洋に突出せる半嶋地に在り。安房上總の全國及下總の八郡を管す。安房、上總等概ね地味沃肥と云ふべからざるも海に漁業の利あり且つ東京に接し魚介を輸出するの便なり。土地面積三二六方里四六にして戸數は二一一、九〇〇戸。

民有地は總計三四三、四六九町内田地一〇三、八七八町畑七〇、五二九町鹽田一九〇町、山林一二五、八九六町。田一反の地價三六圓六二錢。米作反別九九、九七二町にして一

反の収獲一石三斗。桑畑二、三九〇町、繭一〇、八七八石。製糖業稍行はる。牛馬六五、四九五頭。重要農商物は米、麥、粟、大豆、菜種、落花生、甘藷、馬鈴薯、藍、綿、茶、繭、牛、豕、家禽卵、薪等にして、専ら東京市に輸送するなり。

水産業に従事する者は專業漁業者一六、四六〇戸にして鰯、鯉、鮪、鱈、鰻、鯛、鮎、鰒、章魚、蝶、魚油、鰻等は其産物の重要なるものにして多くは東京市の需要に充つるなり。水産物に富むこと全國に其比なし。然れども工業に至ては僅に酒、醬油、味噌、炭等を産出するのみ。

商賈の數は大凡二八、三六四戸にして、會社の數一九其資本一六八、九七一圓。都會の著名なるは千葉は下總に在り縣廳所在地たり、文部省專轄第一高等學校醫學部及千葉縣中學校、師範學校等此に在り。銚子は利根川の河口に在り、漁場を以て著名なり、且つ船舶輻輳の地たるを以て繁昌なり。其他佐倉、木更津、北條、館山等著名なり。警備は茨城縣と同一管轄に屬す。總房半嶋は相模三浦郡と相對して、東京灣口を扼す

るを以て國防上甚だ重要な地位たり。上總の富津には堅固なる砲臺あり、三浦の觀音崎砲臺と相對し東京灣を守る。

東京府は東京灣の上に在り武藏九郡と伊豆七嶋及小笠原嶋を管す。關東平野の一部分にして地味肥沃たり。面積は五二方里にして戸數は三四七、六〇九戸なり。則ち面積は他の府縣に比して最も少くして戸數は最も多し。一方里に付人口二八、七五三人の割合なり、これ帝都東京の在るによる、東京の戸數は實に二七九、一六〇戸にして府下全戸數の三分の二以上を占む。

民有地の總計四一、四七六町内田地二三、二一六町畑地一七、一九四町、宅地六、六九四町。右民有地の總地價は二一、七五九、八五八圓にして内宅地の地價一一、七九七、七五二圓、則ち宅地一反、一七六圓餘に當る、宅地の地價全國中にて最高く大阪の繁華を以てするも一三七圓にすぎず、蓋し東京は人民輻輳の爲に其中央、日本橋區の如きは土一升の價は正に金價一升の價と相當すと稱せらる、所以のもの偶然にあらざるなり。米

作反別は一四、四八一町、一反の収獲一石五斗四升。麥作一三、五二八町。桑畑一六三町。製茶も亦行はれ一年五六、二二四貫を産出す。農家の數大凡三二、〇五五戸、内十町歩以上の地主二〇五戸あり。重要農産物は米、麥、大豆、繭、生絲、茶、野菜、藍等なり。水産業者は漁業專業のもの二、〇一八戸にして芝鰹、鰯、鱈、小鱈、章魚、鮎、黒鯛、介類、海苔等を産し、淺草海苔は特に著名なり、専ら大森邊の海岸にて製す。工業に従事する者は大凡四八、四一八戸、工業會社一七一其資本一九、六六〇、七二八圓、殆んど全國工業會社資本總額の三分一に近し。製品の著名なるものは綿絲、綿布、織物、西洋紙、鑄物、錦繪、鼈甲細工、蒔繪細工其他種々の美術品等、其他團扇、足袋、摺附木亦著名なり。商賈の數は大凡七七、六二〇戸にして、商業會社の數六〇其資本七、六三四、八三五圓。國立銀行の數十八、支店の數三〇其資本金三四、八八六、一〇〇圓、私立銀行の數二十五、同出張店四十八、其資本六、二八二、九〇〇圓なり。

東京市は我帝國の首府にして東西凡三里南北凡四里、世界の都會の一にして、東京

灣頭に在り、全市を十五區に分ち、其中央に宮城あり、現住戸數二七九、一六〇戸、人員一、一六一、八〇〇人なり。維新前は徳川氏幕府を此に置き江戸と稱せしが明治二年を以て帝都を此に遷されてより東京と改稱し大に繁華の度を加へたり。電信電話あり鐵道、馬車あり、瓦斯、電燈あり、内外四通八達の衝に當り、以て能く帝國の首府たるに適す。

學校は官立には帝國大學、陸海兩大學校、高等師範學校、第一高等學校、陸軍士官學校、工業學校、商業學校等あり、私立には慶應義塾、東京專門學校、國學院、法學院等ありて東京は政治商業の中心たるのみならず又學問教育の中心たるなり。

東京府の警備は陸軍は第一師管第一旅管、海軍は第一海軍區横須賀鎮守府の所管に屬す。東京には宮城の在るを以て別に近衛師團を置き其御守衛に任す。別に憲兵隊あり。伊豆、七島、小笠原島とは共に本府の所管に屬す。伊豆七島とは大嶋、利島、新嶋、神津嶋、三宅嶋、御倉嶋及び八丈嶋にして、伊豆の海岸を南方に去ること凡百哩の海上

に併列す。潮流の關係によりて氣候は温暖なり。男は漁業及農業に従事し女は紡織に従事す。産物は粟、麥、甘藷、青芋、鯉節、乾魚、海藻、織物等あり。小笠原群嶋は八丈嶋の南東凡三百七十八湮に在り。後陽成天皇の文祿二年小笠原貞頼初めて之を發見したるを以て此名あるなり。群嶋の數大小八十九ありて南北に基布す、之を別ちて三群嶋となし、父嶋、母嶋、婿嶋の三群嶋となす。甘蔗、山稔、烟草、葛芋、鳳梨香蕉、咖啡、椰子、饅、鯨等を産出す。

埼玉縣は東京府の西北に在り武蔵十七郡と下總一郡とを管す。面積二六五方里、戸數一七四、九〇四戸なり。

民有地の總計は二六四、七九九町内田六七、三三二町、畑九八、四二二町、田一反の地價平均五十二圓三十一錢なり。米作反別は六九、一〇八町麥作反別は八三、九六一町にして、米の收穫一反一石二斗九升なり。桑畑一六、二六〇町、繭産額九三、七四七石、絲六六、〇九五貫なり。製茶一四六、七九六貫。製糖も亦稍行はる。農家の數は大凡一四

六、〇〇〇戸、十町歩以上の地主二、七六〇戸。農産物は米、麥、綿、繭、生絲、茶、藍、甘藷等なり。

工商業共に繁昌を以て稱すべからず、工業者の數大凡五千戸。織物、製紙、鑄物等を産出す。商買の數二〇、一〇〇戸、浦和は縣廳所在地にして、熊谷は稍繁昌なり。大宮は中仙道と奥州と兩鐵道線の交る所にして、將來繁昌の都會となるべし。神奈川縣は東京府の西埼玉縣の南に在り、相模全國と武蔵三郡を管す。三浦半嶋を以て東京灣を限り、西部は相模灘を控へて伊豆七嶋を望む、故に一部は東京灣に面し他

は相模灘に臨む。面積二二九方里、戸數一七九、二三七戸。土地概ね肥沃なり。民有地總反別二六七、五二四町、内田地二八、七八五町、畑七五、八六八町、畑田五五町

山林一二九、五三四町にして田一反の地價五十一圓八十六錢なり。米作反別三二、三六三町、一反の收穫一石三斗五升、麥作反別五九、九〇三町、桑畑反別一六、九七六町、繭九一、一一九石、蠶絲八六、三〇〇貫。製茶四三、八四二貫。牛馬の數一三、三九五頭

農家の數大凡九七、四五九戸十町歩以上の地主九二六戸。重要農産物は米、麥、大豆、甘藷、煙草、茶、繭、生絲、蕎麥、粟、菜種等なり。水産業に従事する者は漁業專業者四、九五八戸にして鮪、鱈、鯉、章魚、海苔等著名なり。

工業に従事する者は大凡一五、八八七戸、工業會社四七其資本七〇四、〇八八圓にして重要なる製作物は織物、漆器、陶磁器、七寶、煉化石、麥酒、清酒、種油、麥、麵細工、麥粉、ハンカチーフ等にして内地の製品に再び勞工を加へて海外に輸出するに在り。商買の數は大凡三三三、三七三戸、商業會社四二其資本一、七三四、一〇〇圓、特に横濱は外國貿易の市場たるを以て海外貿易甚だ盛なり。横濱は東京を去る八里、東京灣沿岸に在り、安政六年を以て互市場と定めてより内外の貿易商此に集り、現住戸數二九、〇七〇戸、人口一三三、六二七人、外人商館亦千以上にして、明治廿五年中本港を經し輸出は元價六一、五五二、二〇四圓、輸入三一、三二八、九〇四圓なり。本港は特に生絲の輸出港を以て名あり。米國桑港、バンクーバー等より上海香港等に至る航路の要衝に

當るを以て大船巨舶の碇繋するもの頗る多し。其他小田原は相模第一の都會にして、横須賀は三浦半島の東京灣に面する沿岸に在り、横濱を去る七里餘第一海軍區の鎮守府所在地にして海軍造船所あり。鎌倉は源頼朝頼朝府を開きし地にして其遺跡尙存するもの多し。

警備は陸海共に東京府に同じと雖ども、横須賀鎮守府造船所等あり且つ三浦半島には觀音崎の砲臺等ありて東京灣の防備の一半の屬する所なるを以て國防上最注意を要する所とす。

山梨縣は埼玉縣の西神奈川縣の西北に在り甲斐全國を管す。甲斐は南には富士山あり西は赤石山脈、東北は關東山脈に限られ、唯中央は富士川の流域にして甲府平原を爲す。面積二八九方里、現住戸數八一、九六九戸なり。

民有地反別一二九、三〇六町内田地一九、四四二町畑地四一、九七五町山林五〇、三九二町にして田一反の地價五〇圓なり。米作反別は一八、八七六町、麥作反別二九、五三〇

町、米一反の收穫一石六斗四升。桑畑反別一三、一四三町、繭産額六〇、八三〇石蠶絲八四、三九五貫。牛馬二〇、八六一頭。農家の數一八八、七三四戸にして、土地十町歩以上を有する者六八二戸なり。重要なる農産物は米、麥、大豆、玉蜀黍、蕎麥、葡萄、甘藷、馬鈴薯、菜種、煙草、藍、三椏ニツヤ、生絲、綿絲等。水産物は唯鮎のみ。

工業に従事する者は大凡一二、一二五戸、工業會社一〇八其資本四九〇、三四一圓にして織物、紙、水晶細工、生絲、葡萄酒、麥酒等を産出す。商賈の數は大凡一七、九六八戸にして商業會社三六其資本六四七、五五六圓なり。都會の著名なるものは甲府にして人口三万三千餘にして、生絲製造、葡萄酒、麥酒の製造に従事する者多く、又縣廳の所在地なるを以て市街繁昌なり。其他歐澤、市川等著名なり。陸軍第一師管第一旅管に屬す。

静岡縣は神奈川縣の西山梨縣の南に在り伊豆、駿河、遠江の三國に亘り駿河灣を要して遙に太平洋に向ふ。地味は北部は一体に瘠土にして南方は肥沃なり。面積は五〇三

方里餘にして戸は二〇〇、九九六戸なり。

民有地の總反別は四九七、〇六七町内田地六〇、八二二町畑地六四、三七九町鹽田一一、二、二二八町、一反の收穫一石三斗なり。麥作反別四七、〇九二町。桑畑二、四五五町、繭産額一四、六八二石、絲一一、〇五一貫。製茶の盛なること本邦第一にして其産額一、五七三、三七七貫。製糖も亦行はる。農家の數は大凡一四一、八四七戸にして、十町歩以上の地主の數八八八戸あり。重要農産物は茶、藍、綿花、烟草、砂糖、蠶絲、米、麥、材木等なり。又水産に従事する者は專業漁業者七、八〇七戸にして重要水産物は鰯、鯉、鱈、興津鰯、芝川海苔等なり。鑛産物には石油、石灰、建築石等あり。

工業に従事する者は大凡一四、六八三戸、工業會社の數二二其資七一八、〇〇〇圓にして綿絲、紙、疊表、漆器、竹木細工等を産出す。商業に従事する者は大凡二二、八八五戸、商業會社の數七二其資本九二一、二二二圓。著名なる都會を擧ぐれば静岡は駿河

國安倍川の東に在りて縣廳の所在地なり、製茶の取引最も盛なり。濱松は遠江第一の都會なり。沼津、清水、掛川、横須賀、相良、見附、三嶋、韭山、熱海、下田等著名なり。

警備は海軍は第一海軍區の所管にして陸軍は第三師團第五旅管に屬す。

愛知縣は静岡縣の西伊勢灣の東岸に在り三河、尾張の二國を管す。地味三河は肥瘠相半すれども尾張は概ね肥沃なり。東北隅の東山道と接する所は山岳なれども多くは平原にして、尾張は尾濃平原の一部を爲し、三河は矢作川の灌域に屬す。面積は三一二方里餘にして現住戸數は三二〇、三三〇戸なり。

本縣は明治二十四年の震災の爲に非常の損失を蒙り其後面目舊に復したれども、農工商の事情に至ては其後の材料を得ざるを以て他日更に之を補はん。災前の事情によりて其一斑を記さば、尾張は田畑凡七万九千四百餘町三河は田畑凡六万六千六百餘町にして農産物は農産には米、麥、綿花、藍、煙草、大根、生絲、甘藷あり、水産には

鱒、章魚、鰻、鱈、鯉、鯪等あり、又礦産には陶土、褐炭、セメント、黒水晶、建築石、砥石等あり、製作物には七寶燒、瀬戸燒、鳴海絞、名古屋織、綿絲、綿布、酒、醬油、材木等あり。都會の最著名なるものは尾張名古屋にして我國第四の大都會なり。元尾州侯の城地にして今は縣廳の所在地なり、第三師團の司令部あり。縣立醫學校あり、織物、陶磁器、銅器等の工業盛に行はれ且鐵道の集點たるべき形勢あるを以て將來は一層繁昌を加ふるならん。其他岡崎、熱田、豊橋等著名なり。

警備は陸軍は第三師團第五旅管に屬し海軍は第一海軍區に屬す。

三重縣は本道の西端に在り伊勢灣を隔て、愛知縣と相對す。伊勢、伊賀、志摩及び紀伊二郡を管するを以て一部分は南海道に亘るなり。伊賀は全く山地にして伊勢は伊勢灣に面する北より南に亘る細長き地にして志摩は其南端に突出せる半嶋なり。全面積は三六八方里餘、戸數は一七七、四八七戸なり。

民有地總反別は三四四、八七〇町、内田七三、〇六八町、畑二四、四九七町、菰田一一五

町等あり。米作反別は七三、六七九町にして一反の収穫一石四斗、麥作反別は二八、八九七町。桑畑一、八八九町、繭一〇、三五三石、絲八、四八九貫。製茶も亦盛にして産額六二九、五七二貫。製糖も亦稍行はる。農家の數は大凡一二七、三一七戸、内十町歩以上の土地を有するもの四五六戸。重要な農産物は茶、烟草、牛、藍等なり。水産業に従事する者は七、一九五戸にして水産物は伊勢鰻、鱧、鰹、鱈、章魚、鰻、海藻等なり。

工業商業に従事するものは大凡五三、二〇七戸にして工業會社の數二四其資本一、四五三、一五〇圓。商業會社の數一五其資本二〇八、四六〇圓なり。重要な製作品は伊賀焼、萬古焼、綿絲、津の綴子織、春慶塗、紙等なり。都會の著名なるものは津は伊勢岩田川の河口に在り縣廳の所在地にして、桑名は伊尾川の口に在り尾張に渡る要津なり、共に商業盛に行はる。

山田は天照大神の御社あり。垂仁天皇の御代に大和の國より天照大神を遷し奉り雄略

天皇の御代に豊受大神を丹波より遷祀し奉り、内宮外宮と稱し我帝國の大廟たるを以て年々諸國より參拜するもの數十万に下らず。其他四日市、上野、鳥羽は共に著名なり。警備は陸軍は第三師團第五旅管の所管にして海軍は第一海軍區の所管なり。即ち本縣の海岸は第一海軍區の西端にして之より以西は第二海軍區なり。

第四 北陸道

位置等。北陸道は本州の中央北部日本海に面する部分に在り、東北及び南は東山道と相接し、西端は畿内山陰道に連る。東西の長さ凡百十五里餘南北の幅平均十里なり。本道の西端は畿内に接するも其割合に王化の及ぶこと速ならざりしは全く其通路險峻にして交通困難なりしによるならん。神武天皇の御代には此地方は一体に越の國を以て稱せられしが成務天皇の御代に設けられし國造の制によれば三國(越前)角鹿(越前の敦賀郡)能等(能登)伊彌頭(越中射水)等の名稱あり、其後反正天皇雄略天皇の御代

に江沼(加賀の江沼郡)羽咋(能登の羽咋郡)等を置かれ、弘仁十四年に至り越前を割き、て加賀を置かれ、以て現今の國畫の基礎を爲せり。
地勢 東山道と相接する境界は概ね山岳にして其東北境には出羽山脈あり、中央には富士山脈の一端に接し、西南部に至れば飛驒、美濃の高原に連り、若狭は中國の山脈を受く。此くの如く山脈を以て圍繞せられ、且つ越中と加賀との間及び能登半嶋等山岳頗る多しと雖ども、獨り越後の中央には信濃川の灌域に屬する廣曠たる平野あり。日本海に濱する所は一帶の平地なり。能登半嶋は日本海に突出して海岸線の扁直を破り、佐渡嶋は越後の向ひに在り。
海岸線 日本海の海岸線は之を太平洋の海岸線に比すれば大に單純扁直なり。唯僅に能登半嶋の突出すると若狭の沿岸に多少の屈曲を見るのみ。新潟港は五港の一にして外國互市場たれども、信濃川の河口にして良港にあらず冬時は風暴く波高くして船舶の繫船に便ならず。直江津も亦荒川の河口のみ。佐渡嶋には夷、小木の二港あり。能

登半嶋は越中と相要して富山海を爲し射水川の河口に伏木港あり、半嶋の東岸は屈曲多くして七尾港は良港なり、東端の岬角を珠洲岬と云ふ。越前の九頭龍川の口に阪井港あり、西越前岬を廻れば若狭に近く敦賀灣あり。之より若狭灣の沿岸は屈曲多く其中央に突出するものは常神岬にして、松ヶ崎と赤クリ岬とは小濱港の灣入を爲す。本道の沿岸は一体に砂濱なり。
山岳 本道東山道と接する所山岳多し、先つ越後の東北に在りては飯豊山、大日山、三面山あり其岩代との境には御神樂岳、守門岳等著名にして上野との境には大鳥帽子山(六六六四尺)あり、信濃と接する所には菱岳、斑尾山あり、越中、越後、信濃の國境には大蓮華山(九八七二尺)の高岳あり、この山脈越後、越中の境を爲して海岸に達して有名なる親不知の難を爲す。鷲羽岳は信濃、飛驒、越中の境に在り。加賀には其西南に白山(八九四七尺)あり、其山脈の北に走るもの越中、加賀の境を爲し能登半嶋に達す、其能登越中の境に在るもの寶達山(二二六三尺)なり、故に此一帶の山脈を或

は寶達山脉と稱す、高洲山(一八一五尺)は其能登半嶋に在るものなり又俱利伽羅嶺は越中と加賀の境に在り。越前と美濃との間には油坂嶺、冠岳あり、三十三間山は若狹と近江との間に在り、青葉山(二三三二尺)は若狹と丹後の間に在り。此等は共に著名なるものなり。

平野 本道中平野の最も大なるものは越後信濃川の灌域に在り、東北より西南に亘り長さ十三四里幅六七里あり、地味肥沃なり。越中、加賀、越前皆平野あり、越前に在るもの地味最も肥沃なり。

河流 本道の河流は東山道又は其境界の山脉に發して日本海に入るものなり、其最も大なるものを信濃川とす、信濃の千曲川の下流にして越後國境より四十里にして海に入る。河賀川は岩代の日橋川の下流にして國境より二十二里信濃川の北に於て海に入る。射水川、神通川は共に飛驒に發し越中を経て海に入る、國境より海岸に至るまで三四十里。此他越前に日野川あり阪井港に入る、長さ二十四里、足羽川は其支流なり。

其他加賀には手取川、大聖寺川あり、越中には小矢部川、黒部川等あり、越後には姫川あり。

湖泊 湖沼の著名なるものは加賀の東北海濱に近く河北潟あり周回六里廿町、越前に北海入江あり、周回五里二十二町、若狹に三方湖あり、三湖に分る共に周回二里餘なり。其他加賀の柴山潟(三里二十二町)、能登の邑知潟(三里二十二町)、越後の福嶋潟(三里三十一町)、佐渡の加茂湖(四里二十三町)等は著名なり。

氣候 本道は位置地勢等既に述べたるが如く東南は山岳に圍まれ西北は日本海に面するを以て南太平洋の影響は之に及ばず北方亞細亞大陸の寒風其威を逞くするを以て冬は寒く夏は暑し。冬時降雪多く越後高田の邊最も深く、沿海風暑くして航海に便ならず。本道に在る測候所の報告によれば

金澤(加賀)	(最高温度)	(最低温度)	(平均温度)
三十五度三分		七度二分	十三度

伏木(越中) 三十四度九分 八度八分 十二度九分
 新潟(越後) 三十四度五分 六度二分 十二度五分
 土地人員 本道の全面積は千五百七十七方里にして全人員は三百八十万四千九百〇八人なり。則ち土地一方里に人員二千四百十二人宛住する割合なり。別に佐渡の面積は五十六方里三三にして人員は十一万七千七百四十四人なり。本道の一戸住民は五人乃至五人七八なり。

都會 本道の都會一萬五千人以上の住民あるものを擧ぐれば

地名	戸數	人員	地名	戸數	人員
金澤(加賀)	二〇、三五七	九三、五三二	富山(越中)	一三、四三〇	五九、〇九〇
新潟(越後)	一〇、〇八一	四七、二〇一	福井(越前)	八、八一九	四一、五九七
高田(越後)	三、九五四	二〇、三一一	新港(越中)	四、四〇五	一七、三七六
敦賀(越前)	二、九九七	一五、一一〇			

區畫 本道は若狹、越前以下の七國より成り、福井、石川、富山、新潟の四縣にて分轄す。これらの縣別に從て其狀況の一斑を述べん。

新潟縣は本道の最北端に在り、越後全國及び佐渡島を管す。越後は細長き國なるを以て東山道中の山形、福島、群馬、長野の四縣と境を接す。其面積は八二四方里五九にして現住戸數は二九四三三〇戸なり。地味肥沃にして最も農耕に適す。沿海七十里。民有地の總反別は五〇八、三八二町、内田地一六七、三八五町、畑地七九、〇四八町、畑田一四二町等あり。米作反別一六五、二五四町、一反の收穫一石五斗二升、麥作反別一五、八〇七町。桑畑四、八三三四町、産額繭三七、九三六石、絲二九、一五七貫。製茶も大に行はる。十町歩以上の土地を有する農家は二九八四戸。重要農産物米、大豆、麻、綿花、藍、烟草、茶、漆、馬等。礦物は石油、石炭、銅、金、石材等。水産物は鱈、鱒、烏賊、鰻、鮭、鮎、鰻等。

工商盛にして工業會社の數四一其資本七八九、六九三圓、商業會社の數八四其資本一

六七三、七七二圓。重要工業品は絹、縮布、紬、五泉平清酒等にして酒清の醸造は攝津に次ぐと云ふ。新潟は本縣第一の大都會にして我國五港の一にして水陸の運送便利なるを以て商業繁昌す、然れども信濃川口は砂洲ありて大船を舶するに適せず、冬時は暴風の爲に航海の便を失するを以て五港中に在ては外國貿易盛ならずとす。長岡、高田、新發田等又著名なる都會とす。

佐渡嶋は本縣の所轄にして越後を去ること二十哩の海上に在り。我國にて著名金銀の産地にして、我國最古の金銀山たり、今帝國の御料に屬す。鐵、石英等をも産す。

警備は陸軍は第二師管第三旅管に屬し、佐渡には別に警備隊を置く、海軍は第四海軍區に屬す。則ち舞鶴鎮守府の管轄なれども同府はまだ開設せざるを以て本縣は横須賀鎮守府の所管に屬す。

富山縣は新潟縣の西に在り富山灣を要して日本海に瀕す。東は新潟縣及長野縣に接し南は岐阜縣に連り、西は石川縣なり。越中全國を管す。其面積二六六方里餘、戸數は

一四九、五〇九戸なり。

民有地總反別は一八〇、二〇七町内田地七六、九三一町畑地一八、四二二町等あり。米作反別は七四、九九七町にして一反の収獲平均一石九斗一升。麥作反別四、四六四町。桑畑一、四三七町産額繭一〇、九〇二石絲一九、四〇六貫。製茶も行はる。土地十町歩以上を有する農家は一、三四七戸。重要農産物は米、生絲、茶及材木等。鑛産にはセメント、金、硝石等。水産には鱈、烏賊、鮭、鮎等。

工業會社の數三八其資本一九九、五八七圓、商業會社の數五六其資本六〇四、〇〇〇圓なり。重要製作物は絹、綿、麻、織物、硝珀、金屬器、藥種及び壘表等にして、特に富山の賣藥は著名なりとす。本縣第一の都會は富山なり、神通川の東岸に在り北陸道交通の要衝に當るを以て市況繁昌なり。高岡市は金、銀、銅、鐵器、漆器の製造を以て名あり。其他新瀨町等著名なり。

警備は陸軍は第三師管第六旅管の所轄にして海軍は第四海軍區に屬すれども舞鶴鎮守

府の開廊に至る迄は吳鎮守府に屬す。
石川縣は富山縣の西に在り加賀及能登を管するを以て日本海中に突出す。面積二七〇
方里、現住戸數は一四一、一八六戸。

民有地總反別一七七、六三二町内田地五二、四六七町畑地三一、一〇八町、鹽田二二六
町等あり。米作反別五一、三七九町、一反の収獲平均一石九斗一升、麥作反別一〇、四
八六町。桑畑二、九三二町産額繭四九、三〇六石絲一二、七五八貫。製茶大に行はる。
十町歩以上の地主五一三戸あり。重要農産物は茶、烟草、麻、繭、生絲等。鑛産には
金、銅、滿奄、石材等。水産には鹽、鰈、鱈等あり。

工業甚だ盛にして工業會社の數四九其資本二八八、八三三圓あり、商業會社の數二五
其資本一六九、八七五圓あり。重要工業品は九谷燒、銅器、象眼細工、絹、紙、漆器、
麻布等にして特に九谷の陶器と輪嶋の漆器を以て著名なりとす。本縣には縣立工業學
校ありて漆器、陶器等種々の工業技術を教授す。金澤市は本道中第一の都會にして屏

川、淺野川の二流に跨る、昔時は前田氏百二万餘石の舊城下にして其市街の宏大なる
を以て小江戸の稱ありき。今は縣廳の所在地にして、文部省直轄の第四高等學校もあ
りて市況繁昌なり。小松、大聖寺、金石、能登の七尾、輪嶋等は共に著名なり。特に
七尾港は日本海沿岸要港の一にして船舶の輻輳するもの多し、金石は金澤に達する海
路の上陸地なり。

警備は陸軍は第三師管第六旅管に屬し、金澤は其旅團の所在地たり、海軍は第四海軍
區に屬し吳鎮守府の所管たり。

福井縣は石川縣の西南に在り本道西端の縣なり。南は岐阜、滋賀二縣京都府と接し、
北は日本海に面す。越前、若狹の二國を管し、面積二七二方里現住戸數一一五、八三五
戸なり。若狹は山岳多しと雖ども、越前は中央に日野、足羽、九頭龍の諸川ありて其
沿岸灌漑は平地にして地味肥沃能く耕作に適す。

民有地總反別二二七、〇九二町内田地四七、九九〇町畑地一四、七九一町、鹽田一七町

等あり。米作反別は四五、九五二町にして一反の収獲平均一石五斗八升、麥作反別八、七四七町、桑畑二、二五一町、産額繭二七、七二三石絲二二、三六四貫。製茶も又行はる。十町歩以上の地主二七五戸あり。重要な農産物は麻、繭、茶、烟草、菜種等。水産物は鯖、烏賊、鯛等多く其地魚介多し。

工業會社の數八九其資本二九九、二六〇圓、商業會社の數一九其資本二二二、三三〇圓重要なる工産物は奉書紬、羽二重、蚊帳、鉄器、紙、漆器等あり、特に年々多額の羽二重、ハンカチーフ地を産出輸出するを以て著名なりとす。福井市は足羽川の岸に在り、昔時は松平氏の城下にして今福井縣廳あり、工商盛大なり。敦賀港は越前の西南部に在り日本海岸の良港の一なり、水深く大船を繋ぐに足る、東海道鐵道の支線湖東鐵道は此に達し又將來北陸鐵道も此に通すべければ益繁昌を加へん。阪井港は日野川の河口に在り、又北海の要港なり、小濱は若狭の港灣にして若狭塗の製作を以て著名なり。其他武生、大野、勝山、鯖江等を以て著名なりとす。

禁備は陸軍は本縣中越前は第三師管第六旅管に屬し、若狭は第四師管第八旅管に屬す、海軍は第四海軍區にしてして吳鎮守府の所管に屬す。

第五 畿内

位置等 畿内は本州四國九州の中央に在り東は東山道東海道に接し西は山陰山陽及び瀬戸内海を隔て、四國に對し、南は南海道の紀伊に連り、北は山陰道の丹波に界す。南北三十五里、東西二十五里にして其面積四百四十五方里五九。道の區畫に比して最も小なるものなり。山城、大和、河内、和泉、攝津の五國に分つ。神武天皇東征の後大和の橿原カシハラに奠鼎テンテイし給ひてより以後帝都を此に置き給ひ、其後代を重ぬるに従て其地を更められしことあれども、明治の維新に至るまで畿内の區域内に置かせられぬ。畿内は畿内キノウチの地として全國大分畫の基點たりしなり。國史上最古の地は實に畿内地方なりと云ふべし。

地勢 畿内は東南北の三面は陸地に接し、西に大阪灣を要す。南部大和と紀伊との國境には紀伊山脈一帯の群嶺起伏し、東山道近江と接する所又山にして其最も大なるものは比叡山なり、山陰道丹波と接する所又山にして山城地方の界には愛宕山あり。故に其地勢北と南とは山多く中央は一大平地を成すものにして、淀川大和川沿岸の地これなり。大阪は此平野の西南淀川の河口に在り西京は其東北方比叡山の麓に在り。海岸線 畿内の海岸は大阪灣を要する部分のみにして攝津和泉の沿岸これなり。山岳 畿内の山岳の重要なるものを擧ぐれば山城には比叡山(二七二三尺)其東北近江と境を接する所に在り愛宕山(二九〇四尺)其西北丹波に界する所に在り、高雄山嵐山等は紅葉櫻花を以て名あり、歴史の上にて諸子の能く知る所の笠置山は其東南境大和伊賀と相接する所に在り、大和には大峯(六二一〇尺)は南部に在る山(山嶺)の冠にして、其東境の山脈には大疊原山(四二〇一尺)高見山(四二九九尺)あり、金峰山(吉野山の稱あり)は櫻花を以て名あり、吉野川の北部には生駒山(二七二八尺)あり、伊賀伊勢

の境には多武峰(二六九九尺)あり、河内には其東南大和と接する所に金剛山(四二九〇)尺あり楠公勸王の遺跡たり、和泉には犬鳴山(五八一五尺)あり又、攝津には麻耶武庫等の諸山あり。攝津の北部には劍尾山天王峠は共に高峻なり。河流 畿内の地勢は北東南に山脈ありて獨り西のみ大阪灣に臨みて土地の傾斜は東より西に向ふこと既に述べたるが如きを以て其河流の方向も亦此地勢の方向に伴へり。淀川は長さ十五里餘にして畿内第一の大流なり。源を近江の琵琶湖に發するものにして近江に在ては勢多川と稱し、山城に入て宇治川となり、丹波より來れる桂川伊賀より來れる木津川を合せて淀川となりて攝津河内の境を流れ安治木津等の數河に分れて西大阪灣に注ぐ。運輸灌漑の利用最も多し。大和川(十三里)は源を大和の東部に發し河内に入り石川を合せ攝津和泉の境を過ぎて内海に入る。河田川(十一里)は攝津の北境に發し神崎川に合し、武庫川(十三里)は同じく北境に發し武庫山の東麓を流れて海に入る。吉野川十津川は大和に在り共に紀伊に入りて海に注ぐ、大和を貫流するあと

共に十數里なり。
湖沼 著名なるもの山城の巨掠池は周圍四里餘河内の狭山池は周圍一里、傳云ふ前者は豊臣秀吉の設計に成り、後者は崇神天皇の御代に開かれし所なりと。其他山城には納所沼(二里餘)六地藏沼(二里餘)一口沼(二里餘)あり、大和には旗尾池(一里)あるのみ。

氣候 其位置中央に在るを以て其氣候も亦中を得て温和なり。然れども其部分によりて必らずしも同一ならず、概して云は、山城大和の如き海に接せざる山地に在りては寒暑の變甚しく海の影響少きも、攝津等の海に濱する地方に在ては寒暑共に甚しからず。今畿内に設置せる測候所の統計によれば

	(最高温度)	(最低温度)	(平均)
京都	三十五度三	九度六	十三度四
大阪	三十五度四	四度三	十四度七

右は明治二十五年の事實による、土地人員 畿内の全面積は四百四十五方里五九にして人口二百五十万二千二百四十五人なり。其面積は之を何れの道に比するも小なれども、人口は山陰道よりも多きを以て一方里の人口五千六百十六人にして全國中最も密なりとす。東海道を以てするも三千五百人に過ぎざれば人口密度の點に於ては他の地方の遠く及ぶ所にあらず、これ畿内は本土四國九州の中央にして我國にて最も古くより開けたるを以て大都會の數多きによるなり。畿内の最も必要なる部分は實に都會に在り、故に都會を去れば畿内なきなり。

都會 人口一万五千人以上の都會を擧ぐれば

都會	戸數	人口	都會	戸數	人口
大阪(攝津)	九二、一〇一	四八三、六〇九	京都(山城)	六四、五七六	二九七、五二七
神戸(舞津)	三四、二一〇	一四二、九六五	堺(和泉)	八、八五三	四四、九九〇

難波村(攝津) 六、二一七 二六、六一九 奈良(大和) 四、七七九 二五、〇五〇
 伏見(山城) 三、五六五 一七、四七六 天王寺村(攝津) 三、三二七 一五、九〇三

區劃 畿内は山城大和河内和泉攝津の五國より成り、京都大阪の二府及び奈良兵庫の二縣にて之を分轄す。京都府と兵庫縣との管轄區域は山陰道と山陽道とに亘れども以下其概況を畧述せん。

京都府は畿内の東北部山城國に在り、山城國と山陰道の丹波五郡と丹後國とを管轄す。山城國は其南方を除くの外は三面山岳にて包まれ、丹波丹後は山嶺最も多し、唯丹後は北海に濱す。地味肥沃にして農耕に適す。

民有地總反別二〇六、〇五九町餘、内田地四七八一三町、畑地一九、四一一町、鹽田一四町等あり。田一反の地價四二圓四六錢。米作反別四五、九五六町にして一反の収穫二石七斗一升なり。麥作反別二二、八四二町、桑畑四、三二九町、其産額繭三六、九九六石、絲二〇七九七貫。製茶三九一、七六二貫。十町歩以上の土地所有者二四二

戸。重要農産物米、麥、菜種、綿、繭、生絲、茶、蕎麥、大豆、藍、烟草等にして宇治茶は最も著名なり。専ら漁業に従事する者一二八六戸にして、水産物は山城丹波には普通の淡水魚あり、丹後には乾魚海藻等を産す。

工業會社の數九三其資本一、五九五、六五〇圓。商業會社の數一一其資本五〇九、五六〇圓。製造物は西陣の絹織物、鴨川染、清水焼、西洋紙、丹後縮緬、銅器、扇子等あり。京都は我國にて美術工藝器の製作を以て最も著名なり。

京都は山城の中央に在り南北一里二十四町東西一里、桓武天皇以降明治維新に至るまで一千七十五年の間皇城を置かせられし地にして、市區整然として四隣の風景頗る美なり。舊皇居二條城は共に離宮として保存の經營を施さる。其他神社佛閣の著名なるもの頗る多し。美術工業盛にして、重要な海外輸出品の一たり。伏見、淀は山城に在りて又著名なり。龜岡福知山は丹波の都會、宮津舞鶴は丹後の都會なり。宮津は日本海に面する要港にして、舞鶴は北海岸の防備を司れる海軍鎮守府の軍港たり、但し

現今は未だ開闢せず。

警備は陸軍は第四師團第七八旅管に屬し海軍は第四海軍區に屬し、舞鶴開港に至る迄は吳鎮守府の所管に屬す。

奈良縣は京都府の南大和國に在り、大和一國を管轄す。畿内の東南部にして四方陸地にして國內山岳多く、大和川吉野川十津川等此に發す。土地西南部は稍平坦なり。平地は地味肥沃にして農耕に適す。

民有地總反別一八〇、四六二町内田地三三三三九町、畑地一〇九三〇町、山林一三三三三六町等あり。米作反別三二〇一四町にして一反の収獲二石〇升。麥作反別一六九九町。桑畑反別四六〇町。製茶又行はる。十町歩以上の土地を所有する者四〇五戸。農産物は米麥、菜種、大小豆、生絲、藍、烟草、茶、綿花、柿、材木、葛粉等なり。大和は我國にて營林事業の盛なる地にして、山林を有する富豪の人多し。

工商の會社は共に六にして、木綿麻織物、酒類、肥料、墨、筆、紙、綿ネール、等を産す。

奈良は元明天皇より桓武天皇に至るまで七朝八十有餘年間帝都たりし地にして歴史上の舊跡頗る多し。神社佛閣等十有餘年前の建設にしし今日尙存する頗る多く奈良朝時代の文化を觀るに足る。奈良地方は實に我國の古代史なりと云ふべし。郡山五條共に著名なる都會なり。吉野山の櫻、月瀬の梅共に著名なり。

警備は第四師管第七旅管の所管なり。

大阪府は京都府奈良縣の西に在り河内和泉と攝津七郡を管し大阪灣に濱す。河内は全く海に接せざれども攝津と和泉とは大阪灣沿岸に在り。土地平野多く地味肥沃なり。民有地總反別一〇二三〇七町内田地五三九三二町、畑地一七二八町、等あり。米作反別五一八六五町、一反の収獲一石九斗二升。麥作反別二九七九七町。桑畑四三五町。土地十町歩以上を所有する者六六九戸。重要農産物は米、麥、綿、菜種、甘蔗、繭、生絲、茶、砂糖、柿等なり。農業の會社四あり其資本一一二〇〇〇圓なり。

工業會社の數二六七にして其資本は總計一一、一〇六、七二一圓。製作物は晒蠟、紙、製銅、硫酸、玻璃、煉化石、モスリン友禪染、摺附木、油、石鹼、莫大小、紡績、銅鐵器等なり。商業會社の數は五十九にして其資本三、二八七、四〇〇圓。銀行は國立銀行十二にして資本額三、〇九五、〇〇〇圓、私立銀行十四其資本額一、〇三〇、〇〇〇圓。大阪は淀河の口に在り東西一里半南北一里弱にして東京に次ぐ大都會にして古來我國商業の中心として天下の商業は一に大阪市場の左右する所なりしも外國貿易の發達と東北地方の進歩とによりて横濱等の要港起りたる爲め外國商業上の中心たること能はざるも尙内國商業上最要港たることを失はず。市内數多の運河ありて貨物運搬の便頗る大なり。港灣水淺きを以て大船巨船を繋ぐこと能はず、外國貿易は主として神戸港によること尙東京の横濱に於けるが如し。然れども猶大阪を経由する輸出の總額は一、二五八、五五三二圓輸入の總額は五、五四七、三七〇圓なり。各種の工場多く工業次第に隆盛に赴かんとす。砲兵工廠、第四師團、造幣局等あり。次に和泉の

堺は昔時は貿易上重要なる港なりしも今日は振はず。其他河内の八尾、和泉の岸和田、舞津の西宮尼ヶ崎は著名なり。

警備は陸軍は第四師團第七旅團に屬し海軍は第二海軍區にして吳鎮守府の所管なり。兵庫縣は山陰山陽に亘り舞津五郡と播磨、但馬、淡路、丹波二郡とを管す。山陽道の部に説明すべきなれども、縣廳は神戸港に在るを以て畿内の部にて之を説明せん。但馬と丹波とは山岳多く平野少しと雖ども、播磨は瀬戸内海に濱し沿岸一帯沃野なり。地質肥沃にして概して農耕に適せざるはなし。

民有地總反別は五五一、五五一町、内田地一〇二、二四四町にして一反の地價五二圓七十二錢。畑地三四、二八九町、鹽田一三九町あり。米作反別は一〇、二六九八町、一反の収獲は一石六斗八升なり。麥作反別七一九一〇町、桑畑反別五、二四〇町其産額繭三一九〇六石絲二八六八三貫。製茶二二一、〇四一貫。牛七五一六頭馬八二四五七頭。一ヶ年屠牛の數凡八、三九七頭。十町歩以上の土地所有者八二二戸。重要農

産物は米、麥、綿、烟草、豆類、粟、菜種、甘藷、麻、藍、繭、生絲、茶、牛、鶏、卵等なり。専ら漁業に従事する者は四七六五戸にして重要水産物は食塩生魚等あり。特に神戸牛は著名にして専ら但馬邊に産する牛を肉食の用に供すること頗る多し、我國の産牛中全く悪疾の遺傳なきものは獨り但馬牛にして且つ味美にして最も食用に適すと云ふ。

工業會社の數一七三其資本三、六一二、七四九圓にして重要なる産出物は酒、醬油、索麵、製紙、燐寸、木綿、織物等なり。特に燐寸は重要なる海外輸出物の一なり。商業會社の數四八其資本一三三四、三九四圓。神戸港は攝津に在り、大阪の西方十里許大阪灣の沿岸に位す。港灣水深くして能く大船巨舶を繋ぐに足るを以て慶應三年開港以來關西に於て最も重要なる海外貿易市場となれり。一ヶ年間に海外貿易上商品の神戸港を經由するもの輸出二二二九五、七四〇圓、輸入三〇六九八一七七圓にして、横濱に次ぐの互市場たり。輸出物の最も重要なるものは茶にして、恰も生絲の横濱に於

けるが如し。其他播磨の姫路は山陽道の要衝に在りて著名なり、豊岡、出石、生野は但馬の都會なり、特に生野は著名なる銀の産出地にして佐渡の银山と同じく帝室の御料に屬す。

警備は陸軍は第四師管第八旅管に屬し、旅團司令部は姫路に在り、海軍は攝津播磨の沿岸は第二海軍區に屬し、但馬の沿岸は第四海岸區に屬し、共に吳鎮守府の所管たり。

第六 山陰道

位置等 山陰道は本州西部の日本海に面する部分に在り、山陰道と相背す、これ山陰道の名稱ある所なり。東は畿内及び北陸道に接す。東西の長さ八十餘里、南北平均十里、全面積一〇九方里なり。丹波丹後以下の八國より成る。

本道中出雲國は我國中最古に開けし所なりと云へる傳説あれども其は神代の事にして事多くは漠乎たり。神武天皇の御一統後崇神天皇の御代に至り各地へ巡撫の將軍を遣

はされし時丹波道へ遣はされし事見ゆ、丹波道とは當時に在ては今の丹波丹後但馬邊一帯の稱たりしなり。成務天皇の御代に制定せられし新區劃には丹波二方稻葉伯岐の名稱あり、丹波を割きて丹後を置かれしは文武天皇の御代にして、畿内七道の制を立てられければ山陰道の區劃此時に完成せしならん。

地勢 山陰道は既に述べたるが如く南西は山陽道に界し、本州の中央を貫ける山脈西に走りて山陰山陽の境界を爲す。故に地勢北に傾きて河流は皆北流して日本海に入る。山岳各處に起伏すと雖ども南北僅に十里に過ぎざれば長流平野なく、地勢總べて狭少を究はむ。

海岸線 本道の海岸線は日本海沿岸の特性を失はず、屈曲甚だ少し。唯丹後の沿岸と出雲の沿岸とに於て多少の灣曲あるのみ。丹後に在ては與謝山嘴は北海に突出し其東端鷲岬は加佐郡の東部若狹と接する部分より突出せる成生岬と相要して一の灣曲を爲し、宮津港舞鶴港此内に在り。次に伯耆の米子半嶋は出雲の彌山半嶋と相要して中

海湖を爲し、伯耆の米子港其奥に在り。出雲半嶋の東端は地藏鼻にして西端を十六島鼻と云ふ。宍道湖は島根半嶋と本陸との間に在り。隱岐島は此半嶋を離れて遙に海上に在り。

山岳 本道と山陽道と界する所は一帯に山岳なれども高峻ならず。先づ著名なる山岳を擧ぐれば丹波の北境に三岳山 (二七二二尺)あり、但馬には千丈岳あり、伯耆には大山(五八七七尺)あり、これ實に山陰山陽中の最高峰なり、伯耆の船上山は名和長年の勤王を以て著名なり。出雲には三瓶山(三三八七〇尺)あり。

河流 保津川は丹波に在り西南に流れ山城に入りて桂川となる、水源より淀川まで延長五十五里。和知川も丹波に在り數多の支流を合せ、北流して丹後に入り由良川となりて日本海に入る。延長凡三十里。江川は石見に在り、上流は備後の三次川にして石見の東隅に入り西北に流れ矢上市木等の支流を合せ日本海に注ぐ、延長凡五十里。大川は伯耆出雲の境に發し出雲の中央を流れて宍道湖に入る、長二十里。神門川は出雲

の西隅に在り長十九里日野川は伯耆の西邊に在り十七里、城崎川は但馬に在り北流十六里にして海に入る。

湖沼 本道の湖沼中最も大なる者は中海にして出雲伯耆の界に在り、一方海に通ずるを以て鹹水なり、周圍十六里十一町あり。之に次ぐものを宍道湖となす、中海の西に在り、周圍十三里餘なり。其他因幡の湖山池(周圍三里半餘)伯耆の東郷池(二里半餘)等なり。

氣候、本道は南に山脈を負ひ北日本海に面し大陸の寒風に吹かるゝこと北陸道に似たるを以て、冬時風暴く積雪深し。伯耆の境町に在る測候所の報告によれば空氣の溫度は最高三十五度三分、最低五度二分、平均十四度なり。

土地人員 本道の全面積は一、〇八七方里にして、現住人口一、八〇六、二二四人なれば一方里に付き千六百六十一人の割なり。其密度東山道と相似たり。

都會 住民一万五千人以上の都會を擧ぐれば

戸數	人口	戸數	人口
七、七二四	三五、四五九	六、三〇三	二九、〇一九
松江(出雲)	鳥取(因幡)		

區劃 本道中丹波丹後但馬は京都府兵庫縣に分ち管するを以て其他の國々は鳥取嶋根の二縣にて分轄す。

鳥取縣は兵庫縣但馬の西に在り、南は山陽道の岡山縣と相接す。因幡伯耆の二國を管し面積二百二十四方里、現住人口七九五〇五戸人口四〇三、五八九人。地勢山岳多く平地少きも因幡の中央千代川及び伯耆の日野天神二河の灌域は平夷なり。地味肥沃ならざれども禾穀には適せざるにあらず。

民有地總反別は一八〇、八五六町内田地三三三、五〇〇町、畑地一三、四五五町等あり。米作反別三三、八一九町一反の収獲一石八斗三升。麥作反別一九、七〇三町。桑畑一八、一町其産額繭一六五三二石、絲一二三七一貫。製茶は少しく行はる。牛馬合計三九、三四一頭。十町歩以上の田畑を所有する者三百五十七戸。農産物は米、麥類、

豆類、菜種、綿、麻、楮、藍、茶、烟草、繭、生絲、牛馬等。専ら漁業に従事する者は二二一五戸にして、水産物は各種の魚介あり。

工業は盛大ならずと雖も、油、醬油、酒、蠟、紙、木綿、織物、鐵、烟草、藍玉、等を産す。特に白珊瑚は因幡の産にして著名なり。鳥取は因幡の千代川の右岸に在り、縣廳の所在地たり。米子と境とは伯耆の要港にして船舶の往來多し。

警備は陸軍は第四師管第八旅管に屬し、海軍は第四區にして吳に屬す。

嶋根縣は鳥取縣の西に在り、南は廣嶋縣と相接し出雲石見隱岐を管す。面積四三五方里、戸數一四七、四九三戸、人口七〇〇六六五人。出雲石見共に山岳多く平地少し、出雲の箱川神門川、石見の江川の灌域は平地にして地味肥沃なり。

民有地總反別四六四、八九七町内田地五五二一三六町、畑地四一六八六町山林三六〇、七二三町等あり。米作反別五四八七六町。一反の收穫一石六斗。麥作反別二三四二五町。桑畑一六三三町、其産額繭七八〇八石、絲六六三〇貫。牛馬六二六一九頭。田畑

十町歩以上を有するもの六八八六戸にして其多きこと全國に冠たり。農産物は米、麥、大豆、甘藷、綿、櫛實、茶、人參、烟草、繭、生絲、粟、大麻等。専ら漁業に従事する者は八千七百三十二戸にして、諸種の魚介苔類を産出す。

工業は盛ならずと雖も、木綿、紙、鐵、銅、蠟表、陶器、蠟等あり。著名なる都會は出雲に松江は宍道湖の東岸に在り本道第一の都會にして市況盛なり。石見には濱田港あり、水深きを以て大船の往來するもの多し。

隱岐は出雲より二十七哩の海上に在り、群島中大なる者四あり、島後は最大にして東西南北各四里餘あり、全面積二十一方里、地味薄瘠なり。後醍醐天皇の舊跡にして國史を讀むものの感慨に堪へざる所なり。

警備は陸軍は第五師管第九旅管に屬し、海軍は第四區にして吳に屬す。

第七 山陽道